

# みんなが主役になれる オープンプラットフォーム みんなで作るコムケア物語の6年目

「コムケア」って何だったのか  
そして、何なのか  
の中間報告

コミュニティケア活動支援プログラム  
2006年度活動報告書



住友生命社会福祉事業団  
東レ株式会社  
コミュニティケア活動支援センター

コミュニティケア活動支援センターは住友生命社会福祉事業団および東レ株式会社より本プログラムの実行事務局を受託している組織です。

# コミュニティケアから ケアコミュニティへ

## みんなが主役になれるオープンプラットフォームとしてのコムケア

昨年度の報告書で、「ひらく」から「つなぐ」へ、そして「つくる」へと進化してきたコムケア活動も、いよいよ新しい段階に進みそうです、と書きました。

そうした兆しが、少しずつ具体的なかたちになって姿を現わしたのが、6年目のコムケア活動でした。

今年度は、NPOに対する公開の資金助成プログラムは行いませんでした。

コムケア活動を、NPOに対する資金助成プログラムだと考えている方も少なくないのですが、コムケア活動にとって、資金助成プログラムは、入り口のプログラムでしかありません。

コムケア活動が目指しているのは、みんなが気持ちよく暮らせる社会に向けて、各地でさまざまな取り組みをしている人たちをつないでいき、そのつながりの中から、だれもが主役となって活用できる「支え合いの輪」を生み出すことです。

資金助成が目的になってしまえば、そうしたコムケアのビジョンとは違う方向に向かいかねません。ましてや、NPOを「支援する」などという、上下関係をこの世界に持ち込むことは、コムケアにはなじまない発想です。

資金助成プログラムがなくても、コムケアは持続できるはずですし、もし持続が難しいようであれば、コムケア活動は理念だけの実体のない活動でしかなかったのです。無理をして存続させる価値はありません。事務局のためにコムケア活動を持続させることなど論外です。

仕組みや組織は、役割を終えたら、消えていくのが自然です。

そして、1年間が経過しました。

「みんなが主役になれるオープンプラットフォーム」としての「支え合いの輪」に向けて、ささやかですが、一歩前進したように思います。

その確信を得られたのは、4月22日に開催したコムケアフォーラム2007でした。参加できない人まで含めて、みんなで創りあげるコムケア的なフォーラムが実現し、そこから新しい物語が始まりだしています。

「コムケアネットワークをこれからどう育てるか」の呼びか

けにも、何人かの人が手をあげてくれています。

資金助成プログラムの選考会で毎回お話ししてきたことのひとつは、「ケアしあう文化を回復したい」ということでした。「ケア」という言葉は広がっていますが、ケアしあう関係は残念ながらまだそう広がっているわけではありません。特に「内輪のケア」はともかく、外に開かれたケア、他人へのケア、といったことは、NPO活動に取り組んでいる人でさえ、必ずしも充分とはいえません。

まだささやかなネットワークですが、コムケアでは自分たちの活動だけではなく、隣りで、あるいは遠くで活動している人たちの言動にも関心を持ち、問題を共有し、できる範囲で支えあうという、開かれたケアのつながりが芽生えだしています。

コムケアネットワークは、ケアコミュニティへと育てだしているのです。

それをみんなでもっともって育てていって、ケアしあう大きな風を社会に起こしたい、社会全体をケアコミュニティにしていきたい、それが次のビジョンです。

コムケアはいよいよ新しい段階へと進みます。

果たしてうまくいくかどうか、それはコムケア活動に参加してくれるみなさん次第です。

今年度の活動でわかるように、コムケアセンター事務局は極めて怠惰ですから、あまり期待はできません。

本報告書は、こうしたコムケア活動の6年目の記録です。活動に参加してくださったみなさん、そして応援してくださった住友生命社会福祉事業団と東レ株式会社に感謝いたします。

\*「コムケア活動」は、私たちが取り組んでいる活動の総称です。

2007年5月15日

コミュニティケア活動支援センター事務局長  
佐藤修

# 目次

## 第1部 2006年度の活動概要

1. 活動方針	5
2. コラボレーション活動	5
3. ネットワーキング活動	6
4. コムケアフォーラム活動	7

## 第2部 コムケアフォーラム2007

1. フォーラムの概要	11
2. 全体フォーラムセッション	12
3. ブース展示	14
4. コムケア仲間からの呼びかけ	17
5. フォーラム参加者からの声	18
6. ケアアップくんの活躍	18
7. フォーラム裏話	19

[資料1] コムケア活動で大切にしていきたいこと	20
[資料2] コムケアフォーラム2007参加者の声	23

## 第3部 「コムケア」って何だったのか、何なのか … 29

## 第4部 これからのコムケア活動 … 43

### [コラム]

・コムケア活動の3つのキーワード	4
・イベントはコムケア仲間のつながりを育てる場	44
・コムケアではこんなことを大切にしています	45

### このプログラムを通して実現したいこと

#### ○安心快適社会に向けての「大きな福祉」への関心の醸成

福祉というと、高齢者介護とか障害者支援などの直接的な問題解決に目が向きやすいが、将来的な問題も含めて、すべての人が安心して快適に暮らせる社会づくりを「大きな福祉」と捉え、そうした活動への支援を通して、社会における「大きな福祉」「安心快適社会の実現」への関心を高めていく。

#### ○さまざまな市民活動をつなげる共創型相互支援の輪づくり

実際に市民活動に取り組んでいると、忙しさの中でなかなか外部に目を向ける余裕がなくなり、自分たちだけの世界に埋没しがちだが、効果的な活動をしていくためには、さまざまな市民活動が連携し支えあっていくことが必要である。テーマを超えて、さまざまな市民活動が学び合い支え合う「共創型相互支援の輪」を広げていく。

## コムケア活動の 3 つのキーワード

# 大きな福祉

社会にあるさまざまな問題を、みんなが自分の問題として共有化し（つまり当事者になって）、知恵と汗を出しあいながら、みんなにとっての新しい価値（積極的な解決策）を創出していくこと。これが、私たちが考える「大きな福祉」です。

福祉というと、介護や高齢者問題など、特別の問題をイメージしがちですが、私たちの生活や社会はさまざまなものが複雑に絡みあっています。ですから、個々の問題ごとに解決していくと同時に、それらをつなげていくことが必要です。

「大きな」という言葉で、誤解されることがありますが、むしろ暮らしに立脚した実践的な「身近な福祉」というイメージです。

# つながり

私たちはこの数十年、つながりを壊し続けてきたように思います。その結果、経済は発展しましたが、暮らしやすさはどうなったでしょうか。

コムケア活動では、参加した人が、お互いに支援し支援される双方向的な関係で、つながっていくことを大切にしています。

しかし、ただつながればいいわけではありません。お互いに心を通じられるような人のつながりが大切です。つながりの主役は、表情を持った個人です。そして仲間内だけのつながりではなく、外に開かれたつながりが大事です。そうしたつながりが積み重なって、大きなつながりになっていくことで、大きな福祉、みんなが気持ちよく暮らせる社会が実現できていくように思います。

# 明るさと新しさ

みんなが気持ちよく暮らせる社会に向けての活動は、同時に気持ちよく楽しい活動でなければいけません。つらいことや大変なことは多いですが、だからこそ、明るく楽しくないと活動は継続できません。それに仲間が広がってはいきません。明るい社会を目指すのであれば、まず自らが明るくなることから始めたいと考えています。

同時に、現状に甘んずることなく、もちろん諦めることなく、状況を変えていく姿勢が大切です。変えるべき現状はたくさんあります。現状に合わせるだけでなく、現状を変革していくことが必要です。そのために、新しい発想や新しい挑戦を大切にしたいと思います。

# 第1部 2006年度の活動概要

## 1. 活動方針

コムケア活動は、みんなが気持ちよく生活できる社会に向けて、さまざまな活動に取り組んでいる活動団体や個人をささやかに支援しながら、お互いに支えあうつながりを育てていくことを目指すものです。

当初は資金助成からスタートしましたが、単なる資金助成プログラムではなく、活動の相談に乗り、応募者の交流の場や学びあいの場づくりに務めてきました。

5回の資金助成プログラムのおかげで、全国にコムケアの仲間が広がり、そのつながりの基盤もできました。そこで、今年度は、資金助成プログラムを中断し、これまで構築してきたコムケアネットワークのメンバー間の交流を深め、共創型のネットワーク組織へと前進させる取り組みをすることにしました。

大きく分けると次の3つになります。

### ○コラボレーション活動

これまでの活動支援プログラムに関しては、単に相談に乗るだけではなく、一緒になって課題解決や新しいプロジェクトを起こしていくような姿勢を強めました。

### ○ネットワーキング活動

これまでに構築されたコムケアネットワークをさらに広げていくために、コムケア活動を外部に紹介する活動に極力参加し、参加呼びかけを行いました。

### ○コムケアフォーラム

地方フォーラムの開催を支援したほか、東京で、インキュベーション型フォーラムおよび全国コムケアフォーラム2007を開催しました。

## 2. コラボレーション活動

これまでと同じく、外部からの相談には制限を設けず、にできるだけ対応させてもらいました。資金助成プログラムをやめたので、資金問題の場合は、他の助成プログラムを紹介するようにしました。

NPOや個人からの相談に関しては、各地にも相談に

応ずる窓口はあるのですが、親身になって一緒に考えてくれるところは少ないようです。また、個別問題はともかく、大きな視点から一緒に考えてくれるところも少ないように感じました。現在のNPO支援体制についても考えさせられることが少なくありません。

コムケア活動を知って、行政や企業、あるいはコムケア仲間以外の人からの相談も増えてきていますが、最近の特徴は企業からの相談が増えたことです。

また、今年度は、単に相談を受けるだけではなく、相談に来た人と一緒に新しい活動に取り組む姿勢を強めました。そのいくつかを例示します。

### ○フォレスト・プラクティスの新しい福祉ビジネスへの協力

社会事業である「手がたりのオフィスマッサージ事業」に協力し、企業への訪問マッサージの事業化に成功した。さらに、他のコムケアの仲間の活動とも組み合わせながら、企業向けの新しい福利厚生プログラムとしての展開も検討したいと考えている。

### ○NPOデイコールサービス協会

独居老人や自宅療養中の人を支援し、孤独死を防止する活動に取り組むデイコールサービス協会のおたっしゃコール事業の全国展開に協力するため、自治体やIT会社への紹介や事業化支援活動を行っている。まだ成果は出ていないが、継続展開中。

### ○NPO感声アイモ

独自の発声法で言語障害を直し、予防介護面でも効果が期待できる活動に取り組んでいる感声アイモの事業展開の相談にのり、活動の広がりにも協力した。

### ○対話法の事業化への協力

日本対話法研究会（群馬県）の対話法の普及活動のために、コムケアセンターのオフィスを活用してもらい、東京でのセミナー活動の実現にも協力した。

### ○団塊シニア支援プロジェクト

団塊世代を対象とした退職後の社会活動支援のプロジェクト推進に、コムケア仲間の介護者サポートネッ

トワークセンター・アラジンと共に協力し、その実現に向けての検討チームにも参加した。

### ○事業起こしのための研究会の開催

メーリングリストなどで公募したNPOの事業開発のための検討会を数回開催し、その中から絞られたテーマについての研究会や検討会を開催した。検討された主なテーマは次の通り。これらに関しては、後述するインキュベーション型コムケアフォーラムで事業提案され、検討された。

- ・園芸福祉研究会
- ・ウェブ活用のNPO支援プロジェクト
- ・団塊シニア支援プロジェクト
- ・企業のCSRとNPOのつながりづくり研究会

## 3. ネットワーキング活動

今年度は交流の場としてのサロンではなく、運営委員会やテーマ別の研究会など、テーマや課題をもった交流の場を中心に集まりを持ちました。メーリングリストもにぎわっています。

ネットワークづくりは、ともすると参加者の人数などの規模に目がいきやすいですが、コムケアのネットワークは、規模ではなく、ましてや単に機能的・事務的につながる関係ではなく、お互いに心が通い、表情のある、人間的な冗長な関係にしていきたいと思っています。

そうした視点から、しばらく連絡が途絶えていた人たちへの連絡もととり、コムケアのネットワークの再構築にも取り組みました。

主な動きは次の通りです。

### ○メーリングリスト

電子ネット上でのメーリングリストは参加者が550人を超えました。さまざまな立場の人が参加しているために、議論も活発です。

イベント案内や情報提供などでも活用されていますが、問題にぶつかった人が悩みや問いかけを投げかけると、さまざまな立場からのコメントやアドバイスが投稿される、とても密度の濃いメーリングリストに育っています。「大きな福祉」や「つながり」の視点が強まっているのが特徴です。

運営委員会やフォーラム実行委員会など、サブシステ

ムとしてのメーリングリストも育ちつつあります。

### ○オープンプラットフォームに向けてのコムネットワークづくり

コムケアのネットワークは、だれもが主役になって活用できる、いわゆるオープンプラットフォームを目指していますが、まずは、それに向けてのコアネットワークの構築が必要だという発想で、この数年、運営委員会などの仕組みづくりに取り組んできました。しかし、むしろそうした重層構造ではなく、みんなが気楽に使えるフラットなネットワークが効果的なようです。そのため、電子メールなどのオンラインネットワークだけではなく、実際に顔を合わせる場との組み合わせを重視する方向に切り替えてきています。

### ○ホームページやブログの活動

ホームページの活用はいろいろとコムケア仲間には呼びかけていますが、なかなかうまく進みません。コムケア仲間のホームページがもっと効果的にネットワークされ、コラボレーションが起こるようにしていきたいと考えていますが、まだ環境が整っていませんが、そうした条件も次第に整備されつつあり、具体的なツールや協力先も出始めています。

今年度は、コムケアフォーラム2007の開催に並行して開設したブログを、コムケアセンターのホームページやコムケアのメーリングリストとつなげる試みをしました。現在、まだ進行中ですが、こうしたことの積み重ねの中から、コムケア的なネットワークングのモデルを創りだしていきたいと考えています。

### ○ネットワーク拠点としてのシェアドオフィス

本郷のコムケアセンターのオフィスをシェアドオフィスにし、オフィスでの交流を高める方向で動き出しました。シェアドメンバーも、必ずしもコムケア仲間であることにこだわらないという方針をとっています。これは、ともするとNPO活動は内向化し、仲間内で外に向けての壁を作りがちなことを回避する姿勢を明確にしようと考えたからです。こうしたシェアドオフィスの効果は、今年度の短い体験からきわめて大きいことが確認できました。これからのNPOのオフィスのモデルにもなるかもしれないと思っています。

## 4. コムケアフォーラム活動

今年度はフォーラムの開催を重視しました。

地方フォーラムの開催を支援したほか、東京で、インキュベーション型フォーラムを開催しました。

また4月には、これまでの活動の振り返りも兼ねて、全国フォーラムを開催しました。

地方フォーラムとインキュベーション型フォーラムは、これからも継続的に展開する方向で進んでいます。全国フォーラムもできれば、場所を変えて定例化したいと考えています。

### (1) インキュベーション型コムケアフォーラム

(2006年11月19日)

経済的に自立できる事業型NPO支援を目的に、事業構想を持った人たちを中心に、企業人を含めて関心のある人が参加し、事業計画を立て、事業化に向けての第一歩を踏み出すことを目的としたワークショップ型フォーラムを開催しました。

事前の活動が重要だという考えで、メーリングリストなどでの情報交換や予備的な研究会を開催、時間をかけて事業計画の作成に取り組みましたが、その過程で脱落したのも多く、フォーラムでは次の5つの事業提案が行われ、参加者による検討が行われました。

詳しくは別冊の報告書をご参照ください。

- 企業の社会性（CSR）評価オープンプロジェクト
- 園芸福祉 グリーンヒーリングプログラム
- 対話法普及プロジェクト
- 団塊シニア・インキュベーション支援事業
- SNSを活用したNPOと企業のコラボレーション事業

フォーラムでは、まずコムケアセンター事務局長から社会事業の特性と事業計画のポイントなどに関する問題整理を行い、続いて5つのグループに別れてのワークショップを実施、最後にこれからの展開に関する具体的な提案をそれぞれの提案者から発表してもらいました。

この5つは実現に向けて少しずつ進展していますが、同時に、こうしたワークショップの継続的実施の要望が参加者より出され、来年度も開催することになりました。

こういう場に企業や行政の人をもっと参加してもらうようにしていければと考えています。

### (2) コムケア地方フォーラム

今年度は5か所での地方フォーラムを開催する予定でしたが、コムケアセンター事務局の事情もあって、仙台でのフォーラムは開催が延期され、結局、4か所の開催に留まりました。

しかし、新たに四国での開催が実現、テーマもこれまでなかった「環境問題と福祉」という分野が開拓できました。



また、参加者が一緒になって企画から準備、開催まで取り組むという、コムケア的「共創」スタイルが一部で内発的に育ってきているのも大きな前進です。NPOのイベントは、とすると主催者の一方的な押し付けになりがちですが、コムケアではそれを避けたいと考えています。そういうことも実際の体験の中から気づいていくことが大切ですが、そうした面からも、今回の地方フォーラムでの体験は、コムケア活動には大きな成果になりました。

また九州と関西では継続しての開催で、コアネットワークのつながりはさらに強化され、来年度以降も継続できる体制が整いました。

### ○第2回コムケアフォーラム in 九州「つどう むすぶ ひろがる」(福岡)

主催 NPO法人共生支援センター (代表:津田泰夫)

開催日 2006年11月25日

「つどう むすぶ ひろがる」をキーワードにして開催された第2回コムアフォーラム in 九州は、介護保険法改定と自立支援法施行など、揺れ動く制度の狭間で、援助を必要としている人々の苦悩と、一方ではなんとか質の高い対人援助を実現しようとして苦しんでいる現場の介助者や事業者の問題提起を受けて、これからの介護と福祉を考えるフォーラムになりました。

国の財政がひっばくし、高負担と福祉切り捨ての道を進まざるを得ない様相の中で、本当に地域の中で日々暮らしている人々が、安心して、それぞれのかけがえの無い人生を締めくくっていくために、どのような仕組みが必要なのか、これらの課題も少しずつ浮かび上がってきたと言えます。それは、私たちが本気で知恵を寄せ合って、今までの既存のレベルを超える、新しい人々の結びを作っていくという課題です。

そのために、それぞれが暮らし、あるいは働いている様々な領域で、たとえ小さな単位であっても、人間が集うこと、集いがそのまま雲散霧消するのではなく、たとえ小さくても、必ず新しい人の結び目を編んでいくこと、そして、それに賛同し、あるいは共感・協働するひとびとの結び目を、少しでも広げていくことです。

今回のフォーラムを受けて、地域で暮らす人々がゆるく手を携え、共に支えあって生きていく仕組み作りを目指す新しいネットワークを育てていきたい、そうした取



り組みこそが、この課題に取り組む具体的な手立ての一つになっていくのではないかと。それが今回、このフォーラムでたどりついた結論です。

これからの展開がますます楽しみになりました。

### ○第2回コムケア関西交流会「創る力と伝えるちから」(大阪)

主催 高齢者外出介助の会 (代表:太田昌也)

開催日 2007年2月24日

昨年の第1回コムケア関西交流会に参加した高齢者外出介助の会が、今回は中心になって開催しました。昨年の交流会終了後の懇親会で、参加者が話し合う中で自然とバトンタッチされていたのです。コムケアフォーラムが、こうして次々に自発的に伝播していく動きが広がることは、まさにコムケアの目指すところです。

今回のテーマは、「創る力と伝えるちから」。数回の準備会での話し合いの中で、みんなが関心を持っている共通のテーマが、「NPOの広報力の向上」だったのです。多くのNPOは、自分たちの活動を社会に訴えることで活動の輪を広げ、支援者を獲得したいと願っていますが、小さなNPOにとって、このことは容易ではありません。デザインや編集などの知識・技術が乏しく、インパクト



のあるチラシやホームページを作ることも難しい、マスメディアや行政の広報紙もなかなか取り上げてくれないなど、常に苦戦を強いられているところが多いのです。そこで今回は、専門家にも来てもらって、実践的かつ具体的にみんなの知恵をぶつけあって、学び合おうという企画です。

参加者は、それぞれ自分のところの広報誌を持参し、専門家のアドバイスを受けながら、具体的にチェックしあいました。単に講義を聴くだけでは得られない気づきがたくさんありました。

参加者は残念ながら少なかったのですが、逆にその分、講師に密着したアドバイスがもらえましたし、参加者のつながりも深まりました。また、聴覚障害者団体の人が参加してくれたおかげで、筆記通訳も体験できました。

今回の成果が、参加したグループをどう変えていくか、とても楽しみです。

## ○香川コムケアフォーラム「こどもフォーラム2007」(香川)

主催 NPO法人音楽療法NPOムジカトゥッティ  
(代表：多田羅康恵)

開催日 2007年2月12日

四国で最初のコムケアフォーラムは高松市で開催されました。切り口は「こども」と「音楽」です。主宰者のNPOムジカトゥッティは、音楽療法という専門性を持つ人たちのNPOで、これまでも障がいや病のハンディキャップをもつ人々、不調和をかかえる子どもたち、子育ての悩みをかかえた親などに対して、音楽療法に関する事業を展開してきました。

今回は、「心をつなぐコミュニティケアをめざして」をテーマに、音楽の癒しのちからや創造的な音楽活動を通して、親子のあり方を学び、そこから改めてコミュニティケアの問題を考えていこうという企画です。

プログラムは三部構成で、最初は明星大学教授で保健学博士の星山麻木さんを講師にした講演会。お話だけの講演会ではなく、身体でのコミュニケーションや創造性を体験する楽しいセッションになった。続いて、3人の音楽家によるミニコンサート。幼い子ども連れで質の高い音楽にふれる機会はあまりなく、期待感・躍動感に満ち溢れたチャイコフスキーのドラマティックな名曲の数々を72人の親子が楽しんだ。

そして最後は、親子のワークショップ。初めて出会った親子が、布や風船を創造的に動かすことで仲間になった。競争や評価のない伸びやかで創造的な美の世界では、誰もが自然に自分を表現でき、心がほぐれやさしくなれ、障がいのある人々も仲間となり心をつないだ。

今回のフォーラムで、こうした場がコミュニティに求められていることが再確認できた。主催者のたたらさんは、今後もこうした取り組みを広げてゆきたいと考えている。





### ○第3回関西コムケアフォーラム in 滋賀（滋賀）

主催 比良里山クラブ（代表：三浦美香）

NPO法人やまんぼの会（代表：大林文彦）

開催日 2007年3月18日

滋賀でのコムケアフォーラムは、これまでにはなかったスタイルのフォーラムで、コムケアの世界を広げてくれるものになりました。

会場は大津市南比良の雑木林内にある比良里山クラブの活動拠点「まほろばの里」（通称）。ワークショップも野外での開催です。テーマは環境問題と企業のCSR。大きな福祉を目指すコムケアにとって、これまでやや手薄な分野でしたが、狭義の福祉と並んで重要な分野です。しかも単に話し合うだけではなく、地域社会の自然再生・地域再生にベクトルを向け、分野を越えたドゥタンクを立ち上げようという思いを持っての取り組みです。

企業、行政、NPOで、それぞれ活躍している人が一緒に企画運営に当たるという点でも、新しい試みでした。実践者たちからの話題提供を受けて、参加者全員での話し合いが行われ、ランチタイムには石窯で焼くピザも楽しみました。

話し合いのキーワードは、「コムケア」「自然再生」「地域再生」「大きな福祉」「循環型社会」「CSR」。本当のCSRとはどういうものか、NPOの行うべき事とは何か、地域にとって本当に良い状態とはどのような状態か、などが、実践を背景にした生きた言葉で語ら、参加者はそれぞれに大きな気づきを得ることができました。さまざまな立場の人たちが参加していたために、CSR議論も企業関係者だけの議論とは違ったものになりました。

最後に、参加者みんながあくまで自分の所属する組織に軸足を置きつつ、それがブレることのないよう、互い

に支援しあいながら活動を進めていくことが確認されました。

これからどう育っていくか、とても楽しみです。

### (3) 全国コムケアフォーラム2007

(2007年4月22日)

コムケアの資金助成プログラムではこれまで述べ140団体への資金助成を行ってきましたが、これまでの活動を振り返り、「コムケアって何だったのか」「コムケアをこれからどう活かしていくか」をテーマに、全国フォーラムを開催しました。

全国から40を越す団体が参加し、ほとんど類例のない、多様な活動がつながりあうフォーラムが実現し、これまでの活動に一つの区切りをつけるとともに、コムケア活動が新しいステップに入るキックオフになりました。

フォーラムの内容は第2部にまとめました。



# 第2部 コムケアフォーラム2007

## 1. フォーラムの概要

コムケア活動が6年を経過したのを機会に、全国のコムケア仲間呼びかけて、それぞれの活動紹介をしながら、新しい「つながり」を生み出す公開フォーラムを開催しました。

フォーラムの概要は次の通りです。

○開催日：2007年4月22日（日）午後1時～5時  
とても暖かな春日和でした。

○会場：台東デザイナーズビレッジ（東京都台東区）

コムケア活動も6年目でしたので、「次のステップに向けての卒業式」という意味をも含ませて、廃校になった小学校（現在は起業支援のSOHO施設）の講堂を会場にしました。いつもとは違った雰囲気、参加者にも好評でした。フォーラム開催のプレプログラムとして、施設を管理しているデザイナーズビレッジ村長に、施設内を見学する「デザビレッサー」も開催しました。

台東デザイナーズビレッジのような雰囲気のコムケアビレッジが、いつか実現できればと思います。



○開催趣旨

次のような参加呼びかけを行いました。

みんなが気持ちよく暮らせる社会に向けてのさまざまな活動をつないでいく「コムケア活動」をスタートさせて、6年が経過しました。資金助成させてもらった活動は140を超え、活動の相談に乗ったり、一緒に活動に取り組んだりしたものを含めると200近い活動と関

わってきました。各地でのフォーラムも少しずつ広がり、メンバーも500人を超えました。NPOを支援するのではなく、NPOと一緒に学びあい支援しあうというコムケアの思いも、少しずつ広がっています。

日本のNPOは法人格をもっているものだけでも今や3万を超え、NPOという存在も多くの人に知られています。しかし、その一方で、NPOの問題点も顕在化しつつあり、これからのNPOのあり方やNPO支援のあり方が問われています。

コムケア活動は、この6年、そうした問題意識を持ちながら活動してきましたが、そうしたなかから、いろいろと新しい活動もはじまり、NPOの横のつながりも育ち始めています。そうした事例には、これからのNPO活動の展開を示唆してくれるものも少なくありません。

そこで、これまでのコムケア活動のなかから生まれた物語やこれから生まれだそうとしている物語を発表しながら、これからのNPOやNPO支援のあり方を考えるフォーラムを開催することにしました。

このフォーラムは、これまでのコムケア活動の集大成でもあります。コムケア活動の次のステップへの出発点でもあります。したがって、これまでコムケア活動など知らなかった人も含めて、できるだけさまざまな人に参加してもらえればと思っています。

そして、できればここからまた、新しい物語をいくつか生み出していきたいと考えています。

○参加費：1000円（ケアアップカードとの引き換え）

参加費は1000円としましたが、それと引き換えに「ケアアップカード」を渡し、フォーラムで出合った活動のいずれかにカードを渡すと、参加費の1000円がその活動への寄付になるというスタイルをとりました。参加費との引き換えとは別に、希望者にはケアアップカードを1000円で販売し、寄付額を増やしてもらいました。

○プログラム

4年前に開催したパズール型コムケアフォーラムをモデルにしましたが、前半はフォーラム形式とし、後半は

展示やミニセッションなどを行いました。

### ・支援企業からコムケア活動へのメッセージ

コムケア活動を支援してくれている住友生命保険相互会社の井上小太郎さんから、活動へのメッセージを話してもらいました。

### ・コムケア活動6年間から見えてきたもの

コムケア活動から見えてきたことや具体的な3つのコムケア活動の話を中心に、これからのNPOやNPO支援のあり方を考えるセッション。

<話題提供者>

コムケアセンター事務局長 佐藤修  
福祉ビジネス・手がたり代表 田辺大  
全国マイケアプラン・ネットワーク代表 島村八重子  
共生支援センター 西川義夫

### ・呼びかけ・アピールタイム

参加者有志からそれぞれの活動の呼びかけを行いました。25人が呼びかけに参加しました。

### ・展示ブースを中心にした交流会と分散型のミニセッション

22の展示ブースが出展され、それぞれのところで交流がもたれました。またブースによってはミニセッションも行われ、ワークショップや講習会も開催されました。

### ○参加者：約150人

参加呼びかけは、コムケアのメーリングリストのほか、行政関係のメーリングリストや企業関係者の集まりなどでも行いましたが、残念ながら実際に参加してくれた人は数名にとどまりました。しかし、参加してくれた人からは全く気づけなかった世界に触れて自らの生き方を考え直す機会になったという感想も届いています。こうしたNPOと企業や行政との枠を超えた、人のつながりがもっと広がることの大切さを感じました。

### ○前後のプログラム

「共創」を大切にするコムケアでは、イベントを開催する時にも、前後のプログラムを重視しますが、今回も実行委員会を発足させると共に、告知と同時に、フォーラム専用のブログを開設し、準備段階の情報をライブに公開すると共に、開催後の報告や反響も、そのブログに掲載しています。

今回のフォーラムは、実行委員長の「裏話」によれば、

必ずしも自己評価は高くありませんが、当日の運営も含めて、コムケア的な共創は充分実現できたと思います。

## 2. 全体フォーラムセッション

### ○支援企業からのメッセージ

フォーラムの前半のセッションでは、まずこれまでコムケア活動の立ち上げを支援し、この6年間、活動を支援してきた住友生命の井上小太郎さんから、企業としての社会貢献活動の考え方や活動を紹介していただくとともに、コムケア活動への期待を話してもらいました。

コムケア活動が、ここまで自由に展開できたのは、この活動を資金面で応援してくれた、住友生命保険相互会社、住友生命社会福祉事業団、東レ株式会社の全面的な支援のおかげですが、なかでも井上さんはコムケアの考え方を当初から支援し、コムケア仲間のさまざまな活動への支援もしてくれています。

コムケア活動では、あまり支援企業は表面に出てきたことはないのですが、今回は最初に先ずお話をさせていただきました。

### ○コムケアセンター事務局長からの報告

続いて、コムケアセンター事務局長から、コムケア活動の概要とそこからの気づきを「3つのキーワード」を中心に話させてもらいました。

#### ・「大きな福祉」

一見関係なさそうな問題に取り組んでいる人も含めて、情報交換し知恵を出し合うことがますます大切になってきています。

#### ・「つながり」

大切なのは「つながり方」です。そして、つながりそのものが、他のつながりとつながっていくことです。

#### ・「明るさ」と「新しさ」

これからのNPO活動は、楽しく明るくないと継続できないのではないかと。また現状に甘んずることなく、変化を起こしていくことも大切です。

こうしたことと関連して、「働き方」や「お金感覚」に関しても、少しだけ問題提起させてもらいました。詳しくはお話した内容を「資料1」として掲載していますので、ぜひお読みください。

### ○3つのコムケア物語

コムケアの考えがさまざまな形で具現化してきていますが、今回は次の3つの事例を紹介してもらいました。

## <全国マイケアプラン・ネットワーク>

「きっかけはお金の縁、続いているのはお金じゃない縁」

コムケアとマイケアの出会いは、助成金でした。お金は使ってしまいましたが、コムケアとの縁は続いています。コムケアはマイケアにとって、困った時の駆け込み寺です。また、コムケアを通して他のNPOとのつながりが生まれました。マイケアにとって人との出会い、人の輪、人財産は、支えであり、力です。マイケアは、どんな立場にあっても、「自分は1人じゃない」と感じられるようなネットワークでありたいと思っています。

## <福祉ビジネス・手がたり>

「マイナーな活動から新しい福祉ビジネスへと成長」

2004年、目と耳の両方に障がいのある「盲ろう者が働けるお店を」と、カフェ&マッサージの開店を準備中でした。しかし諸般の事情で失敗し、地獄の日々が始まります。でも困ったときにコムケアは、適切な支援を下さり、今やオフィスマッサージ事業が成長軌道に。地域のマイナーな活動を、他に先駆け「いいじゃないか!」と見出し、市民権と勇気を与えてくれるのが、コムケアの文化です。コムケアはかけがえない、日本のインフラです。

## <共生支援センター>

「ゆるく手を携えて、共に支えあって生きていける仕組みづくり」

10年ほどかけて、地域の中に福祉の拠点を独自に作り上げる試みに取り組んできました。目指しているのは、地域を包摂する新しいネットワーク型の事業共同体の創設です。それに向けて、さまざまな活動を地道に積み重ねてきています。街の真ん中に溜まり場をつくり、オープンサロンをやってきました。

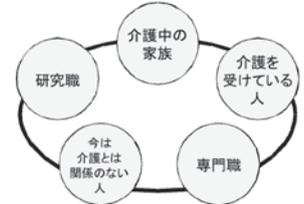
合言葉は「つどう むすぶ ひろがる」。昨年開催したコムケアフォーラムは、その構想の実現に向けての新しいスタートになりました。30年前に描いた夢が少しずつ形になってきています。

「夢」は実現しなければなりません。夢想するだけでは、人が救われることはないからです。次のステップに向けて、また楽しい取り組みを始めたいと思っています。

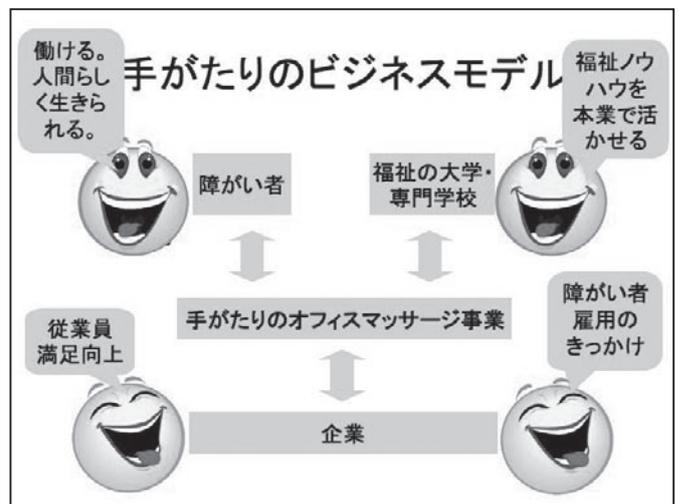
マイケアにとって助成金をもらったことの意味は ...



これからのマイケア  
人と人のつながりでできたネットワーク



誰もが、『ひとりじゃない』と思えるネットワークでありたい



### 3. ブース展示

22のグループが、自分たちの活動を紹介するブースを開いてくれました。また、交流会の間に、ミニセッションや相談会を展開したところもいくつかありました。



#### ■ NPO 法人 心に響く文集・編集局

「越前加賀海岸国定公園内にある「東尋坊」で今、何が起きているか…？放っとけない！」

東尋坊での自殺防止活動の記録をまとめた「東尋坊命の灯台」（茂有幹夫著 太陽出版）には、東尋坊に設置してある自殺防止を呼びかける標語集や、岩場で出会った34人との記録等が綴られています。

#### ■ NPO 法人 自殺対策支援センター ライフリンク

「自殺総合対策・ライフリンクの活動～新しいつながりが新しい解決力を生む～」

ライフリンクは、自殺対策の〈つなぎ役〉として、「生き心地の良い社会」の実現を目指し、「実務的」および「啓発的」活動を行っています。展示では、これまでの活動の実際を、報道記事や画像、写真、ライフリンク通信、などで紹介します。

#### ■ NPO 法人 デイコールサービス協会

「高齢者の在宅医療・福祉サービスを根本的に変えるシステムの紹介」

お年寄りの生命よりも、金儲けや裏金づくり優先は、高齢者の在宅医療・福祉サービスの中でも起きています。当協会のホームページや資料の「老人医療費3兆円削減構想」や「孤独死への自治体の危機管理能力」をご覧ください。

#### ■ NPO 法人 パオッコ 離れて暮らす親のケアを考える会

「離れて暮らす親のケアを考えるミニサロン」

離れて暮らす親といえば、心配なことは「介護とかケア」だけでしょうか。このところパオッコでたびたび話題にのぼるものに「仏壇やお墓」のことがあります。「実家にあるあの大きなお仏壇、うちには置けない」とか、「長男・長女がまもっていくの？」など悩みはつきません。ざっくばらんに一緒にお話ししませんか。

## ■団塊世代よ、大志を抱け！プロジェクト

「団塊世代よ、大志を抱け！プロジェクトの参加よびかけ」

団塊世代が定年退職を迎える2007年問題が話題になっています。そこで、団塊世代が、会社人間から、社会に貢献する人間に変身するのをお手伝いします。ミッションビジネス研修、ミッションビジネスのインターン、ミッションビジネスの就職・起業相談を開催します。たくさんの方の参加をお待ちしています。

## ■有限会社 ビッグイシュー日本

「ビッグイシューの仕組みと雑誌をご存知ない方へのPR」

「THE BIG ISSUE」は1991年にロンドンで創刊され、日本では2003年からスタートしたホームレスの方々しか売れない雑誌です。ホームレスの方々に、単に食事や住む場所を与えるのではなく、雑誌販売という仕事を提供することで自立を応援する社会的企業（ソーシャルエンタープライズ）と呼ばれています。

## ■子育てサロン@ SACHI

「みんなで子育てする街・小金井づくりを目指す子育てサロン@ SACHI」

子育てサロン@ SACHIは、従来ある子育てサロンを一步踏み込んで、街の色々な人たちと子育て世代が触れ合うことで、楽しく子育てをしていくことを目指しています。結局、生きるってことは、ゆりかごから墓場まで、繋がっているってことですよ～。そのつながりを大切にしていけば、良い子育て環境が出来ると考えます。

## ■子育て学ネットワーク

「子どもの主体的な育ちを支援していく「子育て」視点を大切にしたい」

「子育て」は子どもの主体的な育ちを支援していくという視点に立ち、子育て+子育て支援を掲げています。子育てを実践的・学際学的により広く地域で展開、実現させていきたいと考えています。

## ■わしみや子育てネットワーク ハッピー

「いっしょに子育てしようよ！を合言葉に、仲間が集まり、活動しています」

子育て真っ最中のママ・パパたち、子どもたちを健やかに育てたい、子どもを育てる人を応援したい。という地域の人たち。みんなが手をつないだら、わしみや町は

今よりもっと、子育てにやさしい町になるはず。いっしょに子育てしようよ！を合言葉に、仲間が集まり、活動しています。

## ■NPO法人 カドリーベア・デン・イン・ジャパン

「テディベアの温もりと癒し」

テディベアギフトリング、テディベアメイキング、トラベリングベア プロジェクト、ラッキーベアプロジェクト活動についての歩みを写真で紹介。テディベアも展示します。里親になってくれる人がいたら、うれしいです。

## ■NPO法人パイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター 龍の子学園

「ぼくたちの未来を応援してください！」

日本初！ろう児が日本手話で学べる学校をつくりまします。「私たちろう者の言葉は日本手話！口パクでも身振りではなく、手話で授業をしてほしい」。そんな当たり前の希望が、日本では70年以上もの間、かなえられることはありませんでした。だからこそ「自分たちで学校を創る！」と立ち上がり、日本で初めて構造改革特区を使った学校法人設立を目指しています。どうかみなさん、「ぼくたちの未来を応援してください！」

## ■特定非営利活動法人エルマーの会

「2006年の活動風景」

エルマーの会（重度の自閉症から高機能自閉症・アスペルガー症候群などの発達障害児（者）とその家族の会）を財政的に支えてくださる賛助会員さんとの年に1回の交流会や、子ども達との就労の場としてはじめた焼き菓子工場の作業風景、畑でのたまねぎの収穫、秋の宮島の弥山（みせん）への山登り、発達障害を少しでも理解していただくための講演会等の活動風景を展示します。発達障害への理解を広げていきたいと思っています。

## ■日本対話法研究会

「こころの通う〈対話法〉の紹介と普及活動への協力をお願いします」

〈対話法〉の概要を紹介する展示／〈対話法〉の中心となる「確認型応答」と「反応型応答」の違いを知り、それを区別できるようになるための例文を展示／〈対話法〉を自宅で練習できるパソコンソフトの展示と体験操作／考案者の浅野等が書いた論文の展示／各地での普及活動の様子がわかる地図の展示。

## ■横浜カーフリーデー2007実行委員会

『横浜カーフリーデー』の紹介(2006のポスター展示)

横浜で1日だけ車を止めようという社会実験を呼びかけています。車より人・自転車・憩いの空間を優先する都市を体験してもらい、地域の歴史・文化・地域資源を再発見・再確認する日にします。横浜の街を創造的な環境都市へと転換させることを目指します。

## ■日本ドナー家族クラブ

「ドナーファミリーキルト」

ドナーファミリーキルトを通して、生命の贈り物「ギフト・オブ・ライフ」としての臓器提供についての社会的理解を深め、生命の尊さ、きずなの大切さ、社会化を考える。

## ■特定非営利活動法人 コミュニティアート・ふなばし

「コミュニティアート・ふなばしの活動紹介」

学生がつくるまち情報誌「ふなPICO」の取り組みを中心にお話いたします。

## ■ソーシャルプロデュースネット

「ソーシャルプロデュースの活動紹介」

ソーシャルプロデュースネットは、市民社会の市民力・社会力向上のための講座等の企画・運営、社会的起業(ソーシャルベンチャー)へのインキュベーター、ソーシャルプロデュースのネットワーク運営などを行っています。市民力・社会力向上のための講座「シニアの出番だ!」や社会的起業へのインキュベーター東上線NPOネットを紹介いたします。

## ■市民活動情報センター ハンズオン埼玉

「駄菓子屋と書籍販売」

駄菓子屋を出店し、フォーラムを盛り上げたいと思います。駄菓子屋を通じて、参加者の方たちと、「人と人との距離感」と「地域の眼差し」、コミュニティケアについて話したりできればと思います。併せて、当方発行の書籍も販売させていただきます。

## ■ Wonder Art Production

「病院でのアート活動『ホスピタルアート』」

無機質で精神的ストレスの多い病院を、アートでより温かな雰囲気にしていこうとする活動をしています。今

回は、昨年一年間をかけ、全国の病院13ヶ所をめぐる、実施した人形づくりのアートプログラム「Happy Doll Project in Hospital ～心つなぐあなたの笑顔～」の活動を中心にご紹介します。この継続的な活動を通して、私たちは日本の医療現場の環境改善をソフト面から促し、将来的には人に優しく暖かい病院が広がって行くことを願っています。

## ■スタンプング平和展実行委員会

「アートを通じた平和の市民活動」

スタンプング平和展の目的と2001年から行っている平和の版画づくりのワークショップと展示の実際の様子を紹介する。東京でもこの活動ができるように、展示するだけではなく、実際にワークショップを行う。

## ■特定非営利活動法人ふぁっとえばー

「障害を持つ人が、もっと『働ける社会』に!!」

「ふぁっとえばー」は障害者自らが、自己の技術を磨き、それを生かすことで、社会的、経済的に自立をしていく活動を実践し、障害者たちが、誇りを持ち働ける社会の実現を目指して活動しています。そのために、障害を持つ人が、もっと『働ける社会』にしていくことが必要です。「ふぁっとえばー」が取り組んでいる仕事を紹介します。◇名刺&点字名刺◇触知図式案内板◇透明点字付メニュー◇透明点字併記パンフレット◇点字テプラ◇新聞づくり◇書籍づくり◇年賀状挨拶状◇カタログ◇テープおこしなど

## ■全国マイケアプラン・ネットワーク

「ケアプランを自分で立てよう」

介護保険のケアプランを自分で作っている利用者を中心としたネットワークです。自分や身内が介護保険を利用しながら、ケアプランを自分で立てることを通じて、「介護保険」や「介護」にとどまらず、たくさんの方のことを考え、学びました。そんなことをベースに情報交換ができればと思っています。

## 4. コムケア仲間からの呼びかけ

参加したコムケア仲間の有志から1分間メッセージをしてもらいました。コムケアらしく、実にさまざまな活動からのメッセージで、そこから新しい物語のきっかけが生まれたものも少なくありません。



### ■感声アイモ

感声で元気になって、コミュニケーション障害を克服しましょう。

### ■龍の子学園

ろうの青年と親たちが取り組む”夢の学校設立”を応援してください！

### ■カドリーベア・デン・イン・ジャパン

小学校にテディベアを通した心の癒しを広げています。

### ■デイコールサービス協会

「孤独死ゼロプロジェクト」を核に地域ぐるみの高齢者支援を広げていきませんか。

### ■コミュニティアートふなばし

学生が中心になって情報誌でまちづくりをしている活動を紹介します。

### ■市民活動情報センター・ハンズオン！

“人と人の距離感”と“地域の眼差し”を体験的に気楽に話しあいませんか。

### ■日本対話法研究会

誰でも簡単に出来る対話法を体験してみませんか。

### ■団塊世代よ、大志を抱け！プロジェクト

元気な高齢社会を目指して、団塊シニアの社会活動を広げませんか。

### ■ソーシャルプロデュースネット

市民力・社会力向上のための講座「シニアの出番だ!」に参加しませんか。

### ■エルマーの会

発達障害を持つ人たちの働く場づくりに知恵を貸してください。

### ■子育てサロン@ SACHI

子育て支援活動の知恵を出し合う仲間を探しています。

### ■子育て学ネットワーク／鷺宮子育てネットワークハッピー

「子育て」から、子どもの主体性を尊重する「子育て」へ発想を変えていきませんか。

### ■田中弥生：日本NPO学会副会長

これからはNPOはもっと自立していくことが大切です。

### ■ビッグイシュー

仕事を提供することでホームレスの方々の自立を応援する活動に触れてみてください。

### ■サイクルリング

みなさんの活動をまとめて出版してみませんか。

### ■パオッコ

「仏壇やお墓」について、ざっくばらんに話し合ってみませんか。

### ■スタンピング平和展

平和への祈りをこめて小さな版画をつくるワークショップの活動を東京でも始めます。

### ■心に響く文集・編集局

東尋坊で自殺予防に取り組んでいる私たちからのお願いを聴いてください。

### ■ライフリンク

自殺のない「生き心地の良い社会」を実現しましょう。

### ■GLI（グローバル・リンクス・イニシアティブ）

みなさんの取り組みを世界に向けて発信してみませんか。

### ■メロウ倶楽部

シニアネット「メロウ倶楽部」の活動に参加してみませんか。

### ■ふぁっとえばー

障害を持つ私たちの仕事をもっと広げていきたいのです。

### ■介護者サポートネットワークセンター・アラジン

今年もまた開催する「介護なんでも文化祭」に一緒に取り組む仲間を求めています。

### ■横浜カーフリーデー2007実行委員会

横浜で1日だけ車を止めようという社会実験に参加しませんか。

### ■ボランタリーライフ.jp事務局

ボランタリーライフ.jpのコムケアコーナーに参加しませんか。

## 5. フォーラム参加者からの声

フォーラム開催後、コムケアのメーリングリストでフォーラム参加者からの感想が行き交いました。

フォーラムの雰囲気をライブに実感してもらうために、[資料2]として、再録しました。コムケアとは何かを理解してもらう一助になると思います。



## 6. ケアアップくんの活躍

昨年度の資金助成プログラムの最終選考会で好評だった「ケアアップカード」を今回も実施しました。

その案内と報告をコムケアフォーラム2007のブログから引用します。

### ○自分にも寄付できるケアアップカード

22日のコムケアフォーラムにはちょっとした新機軸があります。

それは参加費に関することです。

最初は無料の予定だったのですが、実行委員会で無料はだめだとする人が主張しました。そこで1000円の参加費になったのですが、ただの参加費ではコムケア的ではありません。そこで新機軸を出そうということになりました。

会場で出会った共感できる活動に取り組む人に、その1000円を提供できるようにしたのです。ですから、参加することで、ささやかに「社会参加」できる仕組みになっています。

この仕組みは、ケアアップカードで行います。参加費と引き換えにケアアップカードをもらい、それが寄付の金券になるわけです。しかし、これでは前回の公開選考会の時と同じです。ちなみに、前回の反省を踏まえて、今回はコムケアセンターへの提供は禁止です。

そこで新機軸の登場です。

もし共感できる人に出会えず、自分のほうが良い活動をしていると考えたら、自分に提供することも可能にしたのです。つまり「自分への寄付」です。平たく言えば、参加費は取り戻せるのです。

自分への提供が多いと問題ではないかと思うかもしれませんが。

そんなことはありません。自分に資金を提供すると、その分、責任が発生しますので、これからコムケア活動をしたくなるかもしれません。そうすればコムケアの仲間が増えるのです。こんな良いことはありません。自分に提供する人が多いといいなと思っていますが、たぶんそうはならないでしょう。何しろ魅力的な活動がたくさん集まるからです。

私は、この仕組みがすごく気に入っています。みなさんはいかがでしょう。

1000円を自分に寄付できるかどうか、試しに来ませんか。

### ○ケアアップカードの活躍

今回のフォーラムでもケアアップカードは大活躍しました。

今回は150枚近く発行され、未回収は5枚でした。予想以上に活用されました。

期待していた自分への寄付は少なかったですが、それでも2人いました。

とてもうれしいです。

22日以前にケアアップカードに参加した人がいます。

22日は参加できないが、団塊世代プロジェクトを応援したいと1000円が送られてきました。これまで徳島にいたために、コムケアのイベントには参加することがない、元大学教授です。

22日の当日、まだフォーラムが始まる前に懐かしい顔に出会いました。

4回目に支援させてもらった団体の人です。しばらく音信がなくなっていたので、気になっていました。彼は現役の会社人です。中国に転勤になっていたため、活動からしばらく離れていたのだそうです。

今日は参加できないが、ケアアップカードで寄付したくてやってきたというのです。

そして、会社の社会貢献活動もまだ続いていますと話してくれました。

コムケアセンターとの接点は、会社の社会貢献活動の相談だったことを思い出しました。どこに寄付したかはお聞きしませんでした。フォーラムが始まる前に帰りました。とてもうれしかったです。

ケアアップカードが一番多かったのは龍の子学園でした。35枚でした。玉田さんがとても喜んでくれました。ご自分のブログにまで書いてくれました。

ケアアップカードを追加で購入してくれた人が3人います。

これもうれしい話です。

フォーラム終了後も、ケアアップカードがうれしかったという感想がいくつか届きましたが、1000円でもこんなに活動を元気にできるのです。

今回もケアアップカードはさまざまなつながりを生み出してくれました。

ありがとうございました。

## 7. フォーラム裏話

コムケアフォーラム2007は大盛会でしたが、実行委員長は「コムケア」的には満足していないようです。これもまた「コムケア的」なので、その「裏話」を掲載します。「コムケア」の考え方をさらにわかってもらえると思いますので。

### ■コムケアフォーラム2007の「裏話」(橋本実行委員長)

コムケアフォーラム2007の「裏話」を書きます。コムケアと関わってからこのような形で「裏話」を書くのは初めてです。それは今までのコムケアフォーラムには「表」しかなかったからです。…?…を頭に浮かべている人がいるかもしれませんが、今までのコムケアフォーラムはその当日に至るまでのプロセスもコムケアフォーラムでした。今回、そのプロセスはただの準備でした。

誤解のないように言いたいのですが、もちろん今回もプロセスの過程でたくさんの方にお世話になりました。フォーラムが盛り上がったのも皆さんのおかげです。これはあくまで実行委員長である私の意見(反省)としてお読みください。

変な言い回しになりますが、今回の準備はスムーズに事が運びすぎました。もっとプロセスの過程で議論を重ねたかったです。その結果として、当日はコムケアフォーラムでは珍しく不安感が私の頭の中を覆っていました。

要因としては準備期間が短かった・人手が足りなかった(急なお願いだったため)などが挙げられます。実際に準備に携わったのは少人数となりました。これはある意味テキパキと準備を進めやすい反面、考える頭が少ないので配慮に欠ける面も多々出てきてしまいます。そして何よりもプロセスを楽しむことができません。

コムケアは「共創」というキーワードを挙げ、実施してきました。今回はその点が実現できませんでした。コムケアフォーラム自体は参加者の皆さんのおかげで大反響が出るほど、盛会となりました。しかし、そのプロセスは決してよくはありませんでした。

次回のコムケアフォーラムでは「裏話」が出ないように取り組めるように、反省とさらなる盛会を目指していければと思います。コムケアフォーラム2007の「裏話」を書かせていただきました。

コムケアフォーラム2007実行委員長  
橋本典之

コムケアフォーラム2007  
ケアアップカード(寄付システム)について

コムケアフォーラム2007の参加費は、この会場に参加した団体に対する、今後の発展的な活動への期待を込めた寄付金となります。

■ケアアップカードとは

ケアアップカードは、1枚あたり1000円分の寄付に相当します。団体の呼びかけを聞いたり、交流をする中で、「この団体の活動は面白そうだ。」「興味のあるテーマで活動しているから支援したい」など、個人の様々な思いや判断で、自由に自分の参加費相当額を寄付するものです。

■ケアアップカードによる寄付は、お金だけではありません。

ケアアップカードには自由に書くことができる記入欄があります。ここは1000円の寄付だけでなく、人的、物的な寄付の申し出などを書き込むことができます。それは例えばイベントなどへの参加協力であったり、活動に必要なモノの提供であったりします。コムケアは人と人との結びつきをつくっていくことを大切にしています。ケアアップカードのコメント欄には是非、お名前と連絡先をお書き下さい。そのことが将来どのような新しい展開を生むか、楽しみにしています。

■ケアアップカードの使い方

ケアアップカードは参加費との引き換えで1枚お渡ししますが、お1人で複数の団体に寄付したい、あるいは1つの団体にもっとたくさん寄付したいといった場合、ケアアップカードを複数枚、購入することができます。



## [資料1]

# コムケア活動で大切にしていきたいこと フォーラムでのコムケアセンター事務局長からの報告

## ■コムケア活動の概要

コムケア活動は、多くの方からは、NPOに対する資金助成プログラムだと思われていますが、それだけではないのがコムケア活動です。一言で言うと、みんなが気持ちよく暮らせる社会に向けて、各地でさまざまな取り組みをしている人たちを、ささやかに応援しながらつないでいこうというのがコムケアなのです。

その入り口が資金助成プログラムでした。これは住友生命および住友生命社会福祉事業団の支援によって始まりましたが、その後、東レ株式会社にも支援していただきました。

その助成プログラムに応募したNPOやボランティアグループを中心に、お互いに支えあうネットワークを育ててきました。

資金助成プログラムは一昨年までに5回募集させてもらい、延べで900団体前後の応募がありました。そのうち、実際に資金を提供させてもらったのが約140団体です。

資金助成させてもらうかどうかには関係なく、並行して相談に乗ったり、フォーラムやサロンなどを開催したりして、参加した人たちのつながりを育ててきました。

たとえばメーリングリストでは現在、500人以上の人が参加してくれていますし、各地での集まりも少しずつ始まっています。

こうしたことを通して、みんながお互いに支えあえるような仕組みが育っていけばいいなと思っています。

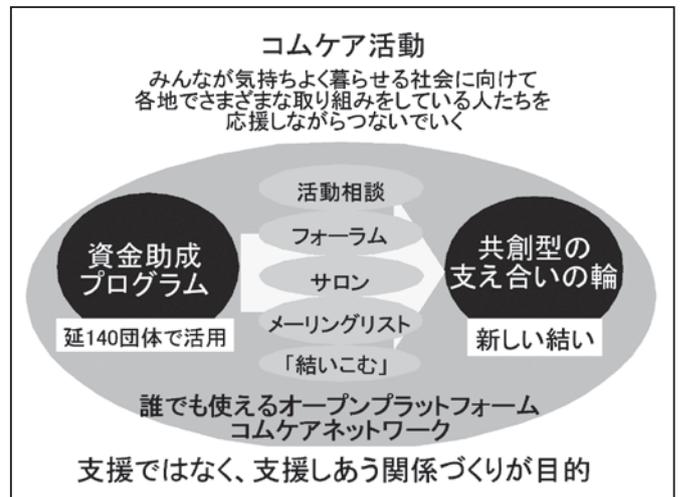
日本には、結いとかもやいとか講という、人のつながりの仕組みの文化がありました。そういうものを改めて構築していけないかというのが、コムケアのビジョンです。

こうして育ってきたコムケアネットワークは、参加する人誰もが自由に使えるような、開かれたプラットフォーム、つまり活動の舞台になればと願っています。

そういう意味で、コムケアセンターはNPOを支援す

る組織ではありません。NPO同士が、お互いに支えあう関係を育てていくためのお手伝いをするのがミッションだと考えています。

別の言い方をすれば、ともすれば自分たちの世界に閉じこもりがちのNPOを外に向けて開くような働きかけをし、お互いにつなげながら、そこから新しい動きを作り出し、そうしたことを通して、大きな結い、ネットワークを育てていこうというわけです。



## ■活動からの気づき

こうした活動をしてきたわけですが、その中から様々な気づきがありました。

社会の実相やNPOの問題点などに関しても、いろいろと気づいたことはあるのですが、今回はこれからのNPO活動にとって何が重要かということをお話したいと思います。

コムケア活動では始めるに当たり、3つのキーワードを設定しましたが、一言でいえば、この3つの視点の大切さを改めて実感したというのが結論です。

### ○「大きな福祉」

まず大きな福祉です。

福祉というと、私たちは介護の問題とか子育てとか、どうしても個別の問題に目がいきますが、コムケアでは個別の問題だけではなく、さまざまな問題をつなげてい

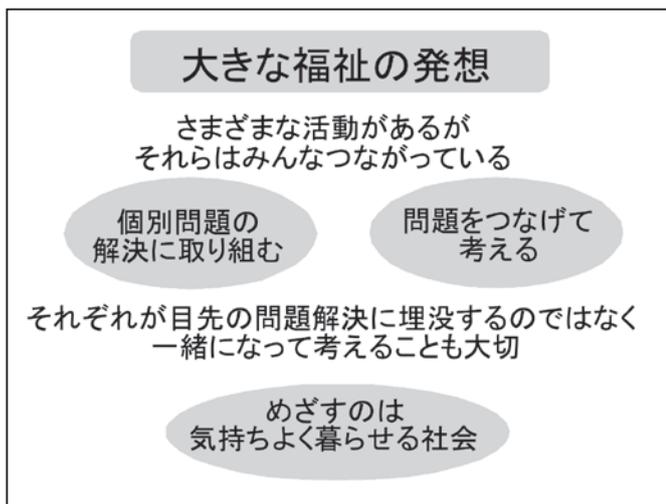
くことを重視してきました。個別の問題はもちろん大切ですが、その問題だけを見ていると大きな状況が見えなくなってしまう危険性があります。

それに私たちの生活は、さまざまな問題が絡み合って成り立っていますから、本当は個別問題への取り組みだけでは解決できることの限界があるはずです。

そうしたことから、さまざまな問題、一見関係なさそうな問題に取り組んでいる人も含めて、情報交換し知恵を出し合うことが大切になってきているように思います。

そういう意味で、みんなが気持ちよく暮らせる社会に向けての活動は必ずどこかでつながっているという視点を持っていくことが大切になってきています。

この大きな福祉の発想は、最初はなかなか共感を得られませんでした。これまでの活動のなかで、ますます必要な視点になってきていると思います。



### ○「つながり」

次はつながりです。

コムケアを始めた頃は、つながりということはあまり言われていませんでした。しかし最近はつながりの大切さは誰もが口に出すようになりました。

しかし、ただつながればいいわけではありません。

つながり方が大切だというのが二つ目のポイントです。

まず「表情のあるつながり方」であることが大切です。事務的にただつながっても、何も始まりません。「組織」と「組織」のつながりではなく、個人のつながりが重要です。個人同士のつながりから、それぞれの組織を活かしていくような発想や動きが出てくるのが大切です。

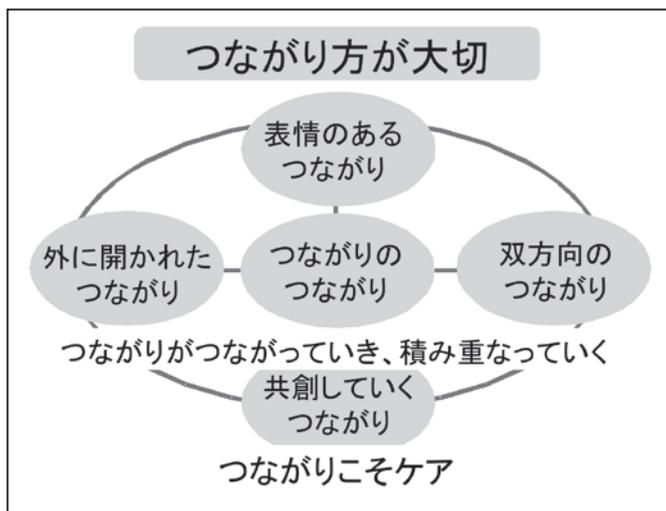
また「外に向かったつながり」が大切です。ともする

と自分たちだけでつながって、外部との関係がおろそかになるNPOも少なくないように思いますが、大切なのは社会とのつながりです。

そうした「双方向のつながり」を通して、一緒になって新しい物語を創りだしていくような「共創的なつながり」が育っていきます。

そして、「多様なつながり」が、絡み合うようにまたつながっていく、つまり「つながりのつながり」が育っていったら、素晴らしいと思います。

つながりこそがケアの本質、というのが、実は私の最近の確信なのですが、さまざまな表情を共有できているさまざまな人のつながりが、積み重なって、大きなつながりになっていくことで、大きな福祉、みんなが気持ちよく暮らせる社会が実現できていくように思います。



### ○「明るさ」と「新しさ」

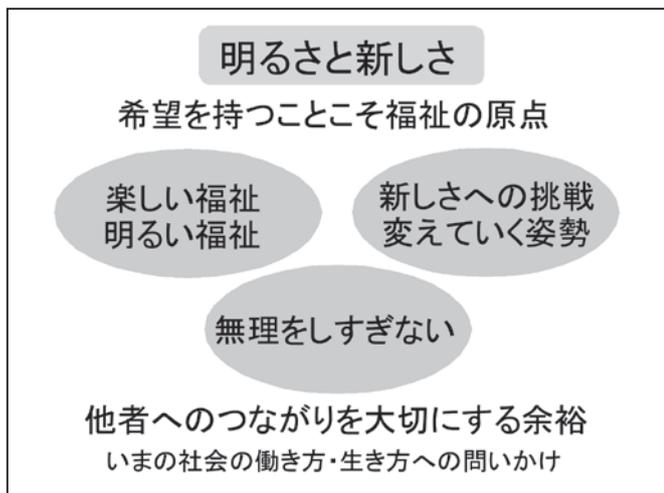
3つめのポイントは、実際にコムケア活動を進めてきて感じたことなのですが、「明るさ」と「新しさ」が、これからのNPOには大切だということです。

実は1回目の資金助成の選考会で、「これからは楽しい福祉」という発想が大切ではないかとお話してしまい、一部の方から後で叱られてしまいました。

福祉の現場で取り組んでいる人たちの大変さを知っていたら、そんな表現は出来ないことを後で思い知らされるのですが、にもかかわらず、私はこれからのNPO活動は、楽しく明るくないと継続できないのではないかと考えています。

福祉の原点は「希望を持つこと」だと思います。

私自身、いまある問題を抱えているのですが、その渦中に陥った時に、自分自身が前向きに、明るくならなけ



れば、前に進めないことを知りました。ですからあえて、明るい福祉、楽しい福祉の大切さを強調しておきたいと思えます。

同時に、現状に甘んずることなく、もちろん諦めることなく、状況を変えていく姿勢や挑戦が大切です。

## ■働き方をどう考えるか

もう一つ付け加えれば、無理をしないということです。

NPO活動に取り組んでいる人が、企業の猛烈社員以上に寝食を惜しんで活動していることは決して少なくありません。私も、時にそう思われていました。

ある時期、寝食を惜しんでがんばらなければならないことはもちろんあります。しかし、それを日常にしてしまっただけではいけないのではないかと思います。

そんなことをいっても、そうなってしまうのが現実だと怒られそうですが、それでいいのかと問い続けることも大切です。

働き方をどう考えるかは、これからのNPOにとって重要なテーマであり、社会に向けてメッセージしていくべきことの一つだと思います。

## ■コミュニティケアからケアコミュニティへ

ところで最初のキーワードの3つ目のコミュニティケアはどう考えればいいでしょうか。

もしつながりこそケアだと考えれば、実はコミュニティケアではなく、ケアコミュニティと表現すべきではないかというのが、最近の私の考えです。

選考会などでも申し上げてきましたが、今の社会のかけている「ケアしあう文化」を回復し、ケアしあう社会を目指すことが大切だと考えています。

## ■「カネの切れ目が縁の始まり」

つながりが大切だとして、つながりをどう育てるかは問題です。

それに関して、コムケア活動で大事にしてきたことは、「カネの切れ目が縁の始まり」ということです。

そもそもNPO活動やボランティア活動は、お金中心社会からの脱却を目指していたのではないかと私は考えていますが、もしそうならば、「お金ではないつながり」「お金ではない支えあい」を考えていく必要があります。

それはどういうことなのか、コムケアの活動を通して、私がずっと考えているテーマの一つです。

たとえば、「みんなとつながっているという実感からもらえる元気」や「みんなががんばっているのを知って出てくる元気」ということは、みなさん、体験されているはずですよ。お金ではない「何か」があるように思います。そして、そうしたことの先に、私は「NPOの自立」を考える鍵があるように思います。



## [資料2]

# コムケアフォーラム 2007 参加者の声 コムケアメーリングリストから転載

フォーラム開催後、コムケアのメーリングリストでフォーラム参加者からの感想が行き交いました。フォーラムの雰囲気をライブに実感してもらうために、いくつかを紹介します。

### ■佐藤 (コムケアセンター事務局長)

コムケアセンターの佐藤修です。

昨日のコムケアフォーラム2007は、おかげさまでとてもにぎわいました。

150人近い人が参加してくださったので、いすが足りなくなり、座れなかった人がいたほどです。座れなかった方、すみませんでした。

展示ブースも予定を超えて、22になり、とても見ごたえがありましたし、1分間呼びかけも、それぞれに思いが伝わりました。

ミニセッションも賑やかでした。

残念ながら、私は参加者の人たちと話しているうちに、いずれにも参加できずに終わってしまいましたが、2003年に開催したバザール型フォーラムを思い出す賑やかさでした。

参加してくださった皆さんはもちろんですが、応援してくださったメーリングリストの皆さんに、感謝いたします。

ありがとうございます。

熊本の宮田さんからはどっさり紅茶が送られてきました。

全員に一袋ずつお土産にさせてもらいました。

フェアトレードの紅茶です。

私も、今朝、早速にいただきました。

とても美味しく、宮田さんの笑顔が伝わってくるようでした。

ケアアップカードは今回もいろいろなつながりを生み出してくれました。

会場は明治40年に創立された、今は廃校になった小学校の講堂でした。

その、ちょっといつもとは違う雰囲気もとてもよかったです。

その施設(台東デザイナーズビレッジ)の村長の鈴木さんが、全面的に協力してくれたおかげで、本当に自由に使わせてもらいました。

公共施設はどこもこうであればいいなと、いつも思います。

鈴木さん、ありがとうございました。

住友生命の井上さん、

それぞれの話をしてくださった西川さん、田辺さん、島村さん。

交流の時間に、いろいろな人からとても面白かったと感想を聞きました。

フォーラム開催に当たっては、たくさんの方々に実行委員会や当日の

設営などにご協力いただきました。初めて参加したにもかかわらず、設営に汗をかいてもらった人も少なくありません。

そして、たぶん今は疲れきっている、実行委員長の橋本さん。

本当によかったですね。

もう2度とやりたくないと思っているかもしれませんが、まあ、またしばらくしたらやりたくなるでしょう。

ありがとうございました。

### ■高橋 (子育てサロン@ SACHI 野川ママの会)

言いたいお礼は、佐藤様が全部言うてくださったようですが、私も、参加して良かったあ~と思っていますので、ありがとうメールです。

ありがとうございました。

### ■西川 (共生支援センター)

フォーラム、本当にありがとうございました。

準備や運営された皆さん、ご参加の皆さん、本当にお疲れでした。

沢山の心を砕いた活動や取り組まれている皆さんに出会えて、幸せでした。

どっちみち、人が創るのですから、こうやって人がつながっていく試みが積み上げられていくことが大事だと、つくづく感じました。

みなさん、それぞれの地域や領域で積み上げて、また顔合わせしましょうね!!

### ■佐藤 (コムケアセンター事務局長)

西川さん

ありがとうございました。

今回、最大の私のミスは、せっかく西川さんに参加してもらいながら、ハーモニカを演奏してもらわなかったことです。

参加した皆さんに叱られそうです。

でも、実は西川さんのハーモニカ演奏を聴くことはできるのです。

西川さんのハーモニカのサイトをご覧ください。

<http://www.ashitaba-web.com/harmonica/index.html>

そこで西川さんの素敵な演奏が楽しめます。

フォーラムに参加できなかった方もぜひどうぞ。

心が癒されます。それでどうぞお許しください。

## ■高橋さん(子育てサロン@ SACHI 野川ママの会)

早速聞かせていただきました。すごく素敵です！  
特に庭の千草とリリーマールレーンと赤とんぼが気に入りました。  
でもやっぱり生で聞きたかったなあ～

## ■西川さん(共生支援センター)

ヒエ～～！。ありがとうございます。  
ハーモニカ吹きの冥利に尽きます。

## ■島村(全国マイケアプラン・ネットワーク)

22日はすばらしいフォーラムをありがとうございました。

準備期間がとても短かったのにあれだけのものができるのは、スタッフの皆さんの力とたくさんのネットワークの賜物ですね。

もしかしたら、準備期間が短かったというのはいわばだけを見てのことで、本当は、この6年間がずっと準備期間だったともいえるなあと思いました。

また、これを機に次の何かが始まる準備期間に入ったって気がしています。

私も、マイケアの活動を振り返る、いい機会をいただきました。ありがとうございました。

## ■田辺(フォレスト・プラクティス)

日曜日のフォーラムでは、誠にありがとうございました。  
3つの事例紹介の2つ目を担当しましたが、本邦初公開のお話も、ご紹介させていただきました。

150人以上の方々が集われ、井上さん(住友生命)の基調講演、佐藤さんのコムケアについての語り、3つの事例紹介。

そして、27人でしたか、1分間スピーチは豪華なメドレーで、見ごたえも十分でした。

この上ないコムケアフォーラムになったのではと感じます。  
今後とも、よろしくお願い申し上げます。

## ■高橋(子育てサロン@ SACHI 野川ママの会)

フォーラムでお話されていた検討委員会に参加を希望いたします。

地域コミュニティを形成する上で、子育て中のお母さん達の存在を抜きには、出来ないはずなのですが、やはり昨日いろいろな方とお話しする中で、今の子育ての環境がどんなものなのかについて、当事者からの意見がまだまだ周知されていないのだなあ～と感じる場面がありました。医療や、介護のような金銭的な社会の仕組みがない中で、行政に寄りかからずに(協働は良いと思うのですが・・・)助成金を当てにしなくても活動できる仕組みがぜひとも欲しいと思います。色々なカテゴリーのNPOが集まるコムケアだからこそ色々なヒント(昨日も佐藤さんからは、お会いしたとたんにアイデアをご紹介いただ

きました)が有ると思いますしそうしたことに期待しています。西川さんの事例にあったような街ぐるみで支えあい育ちあう関係作りが、ここ東京の街でも欲しいところです。

検討委員会に参加し、コムケアいいケアコミュニティの考えを広める活動にもかかわりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。子育て子育て親育ちに携わる方々ぜひ色々なご意見下さいね。反映いたします。

明日の「健康」を考えることや、これから必ず来る「老い」と向き合うことは、今来た道(子どもだったこと)を考えることと、私的には、つながっていると思うのですがどうでしょう?そうした「人」が中心に有る関係作りを目指したいと思うのですが・・・。若いママたちだけに子育ての重責を負わせたり、結局自分の親よりだんなの親の介護をさせられちゃうような社会のあり方って私はやっぱりなんか変って思っているんですけど・・・。その辺も色々な立場(現場)の方ともっともっとお話ししたいと思います。

PS

台東区の取り組み(デザイナーズビレッジ)も良いですね。

## ■佐藤(コムケアセンター事務局長)

高橋さんの投稿に少し補足します。

高橋さんの文中に、「検討委員会」「ケアコミュニティ」という言葉が出てきます。

22日のフォーラムでお話した中に出てくる言葉です。

フォーラムではコムケア活動で大切にしてきたこと、これからしていきたいことを、それぞれ3つずつ、お話ししました。

コムケア活動を始めた時のキーワードは「大きな福祉」「コミュニティケア」「つなぐ」です。

資金助成プログラムの選考会で、毎回、話させてもらいました。

「大きな福祉」は、最初は不評でした。事務局の間でもなかなか理解してもらえませんでした。6年間、活動してきて、確信をもちました。いま、欠けているのは「大きな福祉」の発想です。

「つなぐ」は、「つながり方」が大切だと思ってきました。

NPOの交流会も最近は少なくありませんが、なかなかうまくいかないのは、「つなげ方」ばかりに目がいってしまい、「つながる場」になっていないからかもしれません。

これから大切にすることとしては、「大きな福祉」「つながり方」に加えて、「明るさと新しさ」を3つ目を選びました。

では、最初の仮説にあった「コミュニティケア」はどのようなのか。

事務局の名前も、活動そのものも、コムケア、つまりコミュニティケアという言葉を使ってきましたが、これからはむしろ「ケアコミュニティ」という発想が必要だと最近考えるようになりました。

実は、これも最初からビジョンには入れていました。「ケアしあう文化の風を起こしたい」と選考会でお話していたことです。

「ケアコミュニティ」という言葉は、すでに多くの福祉施設で使われている言葉です。

しかし、その言葉を、もっと大きな意味で広げていきたいと思っています。

そうしたことを踏まえて、これからのコムケア活動をどうするかをみんなで考えませんかと呼びかけたのが、検討委員会へのお誘いです。当日、会場でもある人から参加したいと声をかけられましたので、改めてメーリングリストで呼びかけさせてもらいます。

高橋さんは2人目の委員です。

もうひとり、このMLにも参加してくださっている渡辺さんです。

私は（呼びかけ人ですが）、実は参加しようかしまいか、迷っています。

まあ、そういうところが「コムケア的」なのです。

私が考えている、ケアコミュニティに向けての検討委員会は、連休明けに呼びかけさせてもらいます。たぶん。

その前に、もし自分が呼びかけたいという方がいたら、大歓迎です。

フォーラムでもお話しましたが、コムケアネットワークは、誰もが主役の開かれた活動の舞台ですから。

そして、ぜひみんなが「当事者」になって、「つながり」が繋がって、「新しい結い」が育っていけばと思います。

長くなってすみませんでした。

## ■松本（スタンピング平和展）

昨日はどうもありがとうございました。

とてもよい会だったと思います。

普通、基調講演はつまらないものが多いのですが、3人のお話に引き込まれ、特に2番目のかたのお話はとても上手でそして感動的でした。

実は東京転勤の話聞いたときはとてもショックで、名古屋に15年もいて友人も多く、仕事もしているので体調がおかしくなったほどです。

名古屋を離れたくない、東京に行きたくないと思っていたところ、佐藤さんからちょうど東京フォーラムのお話がありました。

体調はすぐれなかったのですが、どうしようかと思いましたが、これはきっと私が東京で活動していく場を提供されているのだと考え、スタッフの一人と行く決心をしました。

スタンピング平和展は10人ほどのスタッフがいますが、だれも私のあとを引き継いで中心となっていく人がいない状態でしたが、帰りの新幹線の中でそのスタッフはいい活動を絶やしてはいけないと名古屋グループをやっていく決心をしてくれました。

参加してくれた若い女の子がケアアップカードを私たちのところに持ってきてくれて「がんばってください。とても楽しかったです。だから寄付したいのです」と言いました。

佐藤さんのおっしゃるように「福祉はたのしければいけない」というお話をスタッフ（一緒に行った人）が聞いて、私が常日頃していることと同じなので、びっくりしたようですし、見知らぬ女の子が寄付してくれたことにたく感動したようです。

このフォーラムがなければ、私の移転とともに名古屋での活動は消えてしまったかもしれません。

小さな活動も絶やさず粘り強く続けていけば、人の心に何か訴えることができるということを感じています。

今年12月に引越しをして、来年からはスタンピング平和展東京グループを始めたいと思います。

協力してくれる友人はいますが、どこで開催していくかはまったくわかりませんので、また来年になったら東京についていろいろおしえていただければ幸いです。

どうぞよろしく願いいたします。

## ■松江（GLI:グローバル・リンクス・イニシアティブ）

昨日は、素敵なお話に参加させていただき、ありがとうございます。

色々な課題に色々なやり方で取り組んでいる皆さんの話を伺えただけでも、元気をいただく時間となりました。またGLIに興味をもってくださいの方が何人もおられて、GLIのことを紹介できたのも大きな収穫でした。

とはいえ、私自身はGLIにも今年から参加した新人ですし、日本人スタッフは一人だけなので、まだまだわからないことだらけです。今後もコムケアで勉強させていただきたく、宜しくお願いします。

熊本の宮田さん、紅茶をありがとうございました。かの地に思いを馳せながら、家族とゆっくりいただきたいと思っています。

また、開始前の「デザビレツア―」も、とても新鮮でした。父と同じ年齢の校舎、子供たちがいなくなっても、こんなふう地域と連携して、若者の夢を育む場所として活躍しているなんて、とても素敵だと思います。

## ■小池（メロウ倶楽部）

メロウ倶楽部は平均年齢65歳、最高齢では95歳の会員も居る、シニアの全国ネットで、専らオンライン活動で元気な高齢社会の構築に貢献しています。

私共とコムケアのかかわりは、2003年にコミュニティケア活動支援プログラムに応募した時から始まりました。

が、MLを拝見していると、若い方々のオフライン活動が目立ち、何と

なくMLへの参加を躊躇していましたが、今回、佐藤さんのお誘いを受けて、フォーラムに参加し、本当に良かったと思っています。

あらゆる福祉型コミュニティが、こうして結びつき、協力しあって「大きな福祉」に育ってゆくことが、これからの日本社会にどんなにか大事なことであったと痛感させられました。

コムケアの支援を頂いて構築した「メロウ伝承館」では、先の世界大戦当時、戦前、戦中、戦後にハイシニアが体験したことを、論評を加えない実体験のまま語り継ぎ、英語版も構築して世界に発信する作業をしています。

そして、2005年国際連合情報社会世界サミット大賞の日本大会WSA-JAPANでは、文化部門の最優秀賞を受けるに至っています。

「メロウ伝承館」は下記URLにありますので、ご一読ください。

<http://kousei.s40.xrea.com/xoops/index.php>

これらの活動は全て、オンラインのインターネット上での活動で、実体験を投稿して頂くので費用負担もなく、システムとサイト運営は会員のボランティアで行っていてまさに、世界に開かれたインターネットがあればこそその活動です。

それで、GLIの皆さんの活動に共感を覚えたので、ケアアップカードも有効に使わせて頂きました。他にも夫々に立派な活動を続けられていらして、皆さんの地道ながら意欲的なお働きに接し、感動しました。

よい機会を提供して下さった佐藤さんはじめコムケアの皆さんに感謝です(^\_^)ノ

### ■宮田 (日本フェアトレード委員会)

熊本の宮田@日本フェアトレード委員会です。

たくさん「ひしひし伝わる」ご報告有り難うございます。多少はお役に立ててうれしいです。

日本フェアトレード委員会では、2003年からブラジルの有機認証コーヒーをフェアトレードしてきました。来年は、ブラジル移民100年です。移民第1号は、上塚周平という熊本の人です。「笠戸丸」に乗船した移民の半数は熊本県人でした。(したがって、現地の標準的な日本語は熊本弁です。)

津波被害救済の募金活動を機に、スリランカとのご縁が深まり、紅茶のフェアトレードがうんと拡大するようになりました。お届けしたものは、ニードウッドという有機紅茶栽培の草分け的存在の農園のものです。

まだありますので、お気に入られた方は宮田までお知らせ下さい。f(^\_^;)

今年は、国際協力事業団の草の根助成金を受けて、「セイロン紅茶」

のスリランカにコーヒーを植えよう(実は、すでに相当量栽培されているのですが・・・)というプロジェクトを進めています。インスタント用のロブスター種ではなく、ドリップなどで飲用されているアラビカ種を普及しようというものです。試験豆はまずまずの仕上がりで、今年は2トンを目指しています。

佐藤さん、橋本さん、鈴木さん、スタッフの皆さん。

本当にお疲れ様でした。遠くからでしたが、みな様のワイワイがやがやはははの声が(ときには場内シ〜ン!とかあったでしょう、涙もあったでしょう・・・)聞こえてくるようでした。

西川さんのハーモニカ、聞けなくて残念でした。

熊本での演奏会、今年是实现したいです!(コムケアのタベ;セタコンサートとか?)

ありがとうございました。

### ■橋本 (実行委員長)

佐藤修さんより疲れているとご心配頂きましたが、フォーラムで皆さまから元気をたくさん頂いたので翌日もいつものように学校に行くことができました。

コムケアフォーラムに参加頂いた皆さま、参加できなくても応援して頂いた皆さま本当にありがとうございました。

このフォーラムからたくさんの物語が生まれたようで大変、嬉しく思っています。

コムケアフォーラムが盛り上がったのも皆さまのおかげです。

実行委員会や事務局から離れて、まるで、関わった人たち一人一人が細胞となりコムケアフォーラムが生きているかのように動いているのを実感しました。

各地でコムケアフォーラムが開催されるのもそういう理由なのかとも思いました。

拙い進行や配慮の足りない部分があったと思いますが、皆さま、本当にありがとうございました。

心から感謝申し上げます。

### ■四元 (コムケアサポーター)

コムケアフォーラムは、久しぶりに楽しいひと時を過ごすことが出来たお祭でした!

3者の活動紹介も面白く、1分間トークもわかりやすく、資金が必要だとはっきりおっしゃっていた方にケアアップカードをお渡しが出来ました。

そして、輪なげにご参加いただいた皆さま、ありがとうございました!

今回は私は、ハンズオン! 埼玉のお手伝いがメインで参加させていただきましたが、駄菓子の販売や、輪投げのようなゲームの提供が、今後どのようなコミュニティビジネスとして広げていけるか、田辺さんに頂いたアドバイスなどもとに考えて行きたいと思っています。

「ふぁっとえぱー」さんにも会えたり、実物の田辺さんにも会えたり、念願の対話法プチ講座にも参加できたり、はじめてのビッグイシュー冊子も閲覧できたり、北岡さんにイラストレーターさんも紹介してもらえたり、いやいや、とても有益なお祭に参加することが出来ました。

帰りには、久しぶりにお会いした埼玉のメンバーと交流を深めたかったので、机の片づけをサボってすみません～

### ■竹澤 (カドリーベア・デン・イン・ジャパン)

アットホームな暖かい会でしたのしかったです。

私達は前橋市教育委員会の依頼を受けて750体のベア(30cm)作っています。(2月末から6月までに)

このベアが各クラスのマスコットになります。

いじめや不登校やネグレクトやDV等のトラウマから少しでも抜けられたらと願っています・・・

また、私たちのラッキーベアがいろいろな方の心のつぶやきを聞いてまいりました。

言葉では表現できない時、言葉以上に何かを語ってくれる無言のベア。

22日にはいろいろな形で心の癒しをなさっていらっしゃる皆さまの経験を伺い、「癒し研究会」・「癒し学会」を立ち上げたいと思います。

豊かな経験をお持ちの皆さまのご賛同を得られたら幸いです。

### ■鈴木 (会場になった台東デザイナーズビレッジ村長)

参加者の皆様たいへんお疲れ様でした。

コムケアフォーラム 2007 の盛会おめでとうございます。

皆様の節目のイベントでデザイナーズビレッジを使っていたいただきありがとうございました。

私自身も人に優しいファッションを普及させる NPO を立ち上げ、現在も運営に関わっていますので、皆様の苦労や喜びにも共感できます。

創業支援の仕事をしていると、人とのつながりの大切さを思い知らされます。

コムケアフォーラム 2007 には、つながりを作ろうという熱意と、温かさを感じました。

私はいつもコムケアから学ばせていただいています。

その分を、今回少しでもお返しできていれば幸いです。

また今後も皆さまが活動するのに場が必要なときはご相談下さい。事業プラン作りや、デザイン面でも何かお手伝いできるかもしれません。

それでは、また皆様にお目にかかれるのを楽しみにしています。

### ■間澤 (日本ドナー家族クラブ)

皆様ありがとうございました。

皆さんのお話を伺い、元気をいただきました。宮田様、紅茶ありがとうございました。

コーヒーを注文します。

対話法の香織さん片付けを手伝っていただきありがとうございました。

頂きましたケアアップカードのメッセージに励まされています。

### ■浅野 (日本対話法研究会の浅野)

先日のフォーラムではお世話になりました。たくさん嬉しい出会いに感謝いたします。

これまでのコムケアとの数年間の関わりの中で、数回の催しには、もっぱら浅野だけが参加していたのですが、今回は、新潟や福島で活動している会員にも参加してもらえたので、やっと「日本」対話法研究会らしさを皆さんに見てもらえたのではないかと、ホッとしているところです。

たくさんの方にブースを訪問していただき、パソコンを使って〈対話法〉を体験してもらいました。群馬からパソコンを2台持っていった甲斐がありました(結構重かったです～)。

また、ミニセッションにも、ちょうどいい感じの人数が参加してくださり、ファシリテートした代表世話人の江川さんも貴重な体験になったそうです。

ミニセッションは、文字通り短い時間でしたが、その中でも、〈対話法〉のポイントは十分に伝わったはず。そのシンプルさが、〈対話法〉の一番の売りですから。

その後、このメーリングリストでも、何人かの方から感謝の言葉やコメントをいただき、この活動を全国に広げていきたいとの意を強くいたしました。

日本対話法研究会の活動は、これまで、どちらかと言うと、〈対話法〉のことや自分たちの活動を皆さんに「知ってもらう」ことに重点を置いてきましたが、今回のフォーラムに参加したのをきっかけに、他団体との「つながり」を強く意識するようになりました。

これからは、〈対話法〉を実際に使っていただくための手段を探すことや、他団体の活動に協力する「場づくり」に、活動の重点をシフトしていこうと考えているところです。

ところで、私個人は、外部 EAP (従業員支援プログラム)の契約カウンセラーやスクールカウンセラーなどの仕事を通して、もともと自殺予防に強い関心をもっていました。その思いに日本対話法研究会の活動をプラスすることで、たとえば、自殺対策支援センター「ライフリンク」さんや、東尋坊の「心に響く文集・編集局」さんの活動に協力できるのではないかと考えています(すでに少しずつ交流を始めております)。

さらに、〈対話法〉の紹介や、会の活動を、「サイクルリング」さんや「地域と市民の放送局」さんと連携して広報していくことも考えられるでしょう。

ほかにも、今はまだ思いつかないのですが、フォーラム当日名刺交換させていただいた団体の皆さんと、さまざまな連携がはかれると思います。

〈対話法〉は、ユニバーサルスキル(これは浅野の造語です)なので、どんな場面でも、どんな人でも使えるのが特徴です。

今後の日本対話法研究会の活動は、これまでの「知ってもらう」から「使ってもらう」「連携する」に重心をシフトしていく予定です。これまでのコムケアとの数年間の関わりと、今回のフォーラムに参加したことをきっかけに、こんなことを考えることができました。

これからも、どうぞ、よろしく願いいたします。

### ■玉田(龍の子学園)

コムケアフォーラム2007に参加させていただきありがとうございました。

150人以上の参加で大盛況で、とっても懐かしいみなさんにもお会いすることができ、とても嬉しく感じました。

私たちは2003年の資金助成プログラムで、助成をいただき、そこから、始まりでした。

コムケアの実績が認められ、他の助成をいただいたり、コムケアの佐藤さん大川さん橋本さんから、いろんな方をつないでいただきました。

私たちには、コムケアが「つなぐ」ご縁にとっても感謝しています。

今回、印象に残ったのは、住友生命の井上さんが、私たちのことをご挨拶の中で、印象に残った団体としてご紹介いただいたことです。

さらに、今回のフォーラムでもケアアップカードの寄附で35000円の寄附をいただきました。

ご寄附をしていただいた皆様、誠にありがとうございました。

学校設立のための寄附とさせていただきます。

みなさん、ありがとうございました。

こちらのブログにも書かせていただきました。

NPOろう学校をいっしょに創ろう!ブログ

<http://blog.canpan.info/tamatama/>

参加いただいたみなさま、是非、トラックバックやコメントでメッセージをお願ひできますと幸いです。

### ■高橋(子育てサロン@SACHI 野川ママの会)

松本様

是非松本さんたちのお力で、東京も、名古屋のように盛り上げてくださいな。

頑張っている方々のお話を聴いたり、活動の様子を伺ったりすると、とても励まされます。

### ■菅原(感声アイモ)

コムケアフォーラムに参加して、久しぶりにお会いする方、初めてお会いした方など、楽しい会でした。

幸いアピールの時間をいただくことが出来ました。

しかし、お話ししたい内容が多すぎて言葉足らずになり、十分に紹介しきれなかったのではと反省しています。今年度は、新年の抱負でお話しした通り、指導員を100名養成したいと思います。希望される方はご連絡下さい。

### ■牧野(介護者サポートネットワークセンター・アラジン)

大変遅くなりましたが、フォーラムではありがとうございました。

直前に参加を決め、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

おかげさまで、色々な人に出会い、様々な交流ができ参加できてよかったと思いました。

みなさん各々の活動も、どこかでつながっているのですね。

このネットワークが大きなウェブになっていくのでしょうか。

無精者?でなかなかMLにも顔を出さないアラジンではありますが、

今後とも何卒よろしく願いいたします。

### ■佐原(エルマーの会)

コムケアフォーラムで暖かな時間をありがとうございました。

いただきました紅茶は、私たちの茶話会の折に封を切らせていただきます。

そして、ケアアップカードをいただきました皆様、本当にありがとうございました。事務所のトイレ改修基金へ組み入れさせていただきます。

# 第3部

## コムケアって何だったのか、何なのか

コムケア活動も6年を経過したので、一度、「コムケア」って何だったのか、そして何なのかを考えるために、これまで関わってきてくれた人たちに気楽なメッセージをもらうことにしました。

集まった原稿を編集するつもりでしたが、いろいろな視点で気楽に書いてもらいましたので、むしろそのままを「コラージュ風」に載せることにしました。

みなさんのメッセージを読むと、どこかに共通したものを感じます。それがきっと「コムケアの文化」ではないかと思っています。個人的には、ちょっと違うかなあというのものもあるかもしれませんが、それも含めて「コムケア」と受け止めてもらえるとうれしいです。

このメッセージは、ホームページにも掲載し、今後も届いたものも追加していく予定です。これを読まれて、自分も何か書きたいという方がいたら、ぜひメールでコムケアセンターに送ってください。

このメッセージ集がふくらんでいくと、とてもうれしいです。

### ■コムケアってなんだ？.....

#### 島村 八重子:全国マイケアプラン・ネットワーク (東京)

北海道で牧場をやっている知人がいます。

19歳で内地から入植して、今はもう80歳ほどになるその知人は、入植当時もっとも荒れた山間地をあてがわれたそうです。笹が生い茂ってどんなにがんばっても牧草が生えず、途方にくれた彼がやったのは、「牛を放して、何もやらないこと」だったといいます。人間は手を出さず、牛の力に任せたのです。

牛は笹を食べつくしました。その跡のほんの一部分に牧草の種をまくと、種を踏み込んだり食べたりした牛が、群れで歩きながらひつめやフンで牧場の隅々まで運び、やがて全体に牧草が生えて、豊かな山の牧場が出来上がりました。

コムケアって、なんだかこの牧場に似ているような気がします。  
牛、がんばらねば!

### ■【何だかあるんだよ、なければ作るんだよ】そんなつながりとやさしさがコムケア。.....

#### 佐原 いつみ:特定非営利活動法人エルマーの会 (山口)

私達の子どもは、発達障害を持っています。この何年かで、随分学習障害や注意欠陥多動症や自閉症という言葉が、学校関係者の間では知られてきました。しかし、まだまだ知られていない事がとてもたくさんあります。

子ども達は、知的に遅れがない分、障害者としての認定がありません。ということは、集団になったとしても作業所の認定や障害者年金や就業の際の障害者指導等が全て受けられないのです。このことが、親に自分たちが居なくなったらと不安感を抱かせます。これが、手帳のない現実です。

初めて佐藤さんにお会いしたのは、山口市で開催された会の席上でした。

当初から、希望は、就労の場の確保とグループホーム。でも、毎年確実に大きくなる子どもをどうすれば就労させ、グループホームに結び付けられるか漠とするばかりで、事務所もない時期でした。それで、署名を集めて市へ遊休施設を貸してくださいという請願すれば、道は開けるとおわらわの最中、佐藤さんは、署名用紙を預かり、送り返してくださいました。

たった1回隣り合った席の人が、ありがたくて、嬉しくて。行政は、市も、県も暖簾に腕押しで、親の気持ちだけがキリキリしている時だっただけに染み入るような暖かさでした。

発足を促してくださった先生。学生を派遣して下さる大学の先生。少々の出来不出来に目をつぶってお菓子を購入くださる支援者、賛助会費で、会の運営を助けてくださる賛助会員さん、子ども達と映画や遠足に付き合ってくださいるボランティアさん、プロになりなさいとお菓子の技術を指導して下さる元菓子店のご主人と菓子研究家、畑を提供くださる地主さん、考えてみたら、たった23家族100人ほどの集団の周りに100人を超える応援団がいます。

帰り方に迷ったとき時にメーリングリストを覗けば、活発な意見が飛び交っていて、知らず知らずにヒントや、エールを頂きます。

大学や高校を卒業して、面接に落ちぶらぶらしたり、就職したものの社会性のなさから周囲と協調できず諍いが原因で辞めざるを得なくなる子ども達を、彼らなりの尊厳を保ち、彼らのささやかな誇りを維持させ得る楽土が在るのか無いのか分かりませんが、コムケアを見ていたら【何だかあるんだよ、なければ作るんだよ】そんなつながりとやさしさが信じられて、今日も東奔西走しています。

みなさま、今後ともよろしく願いいたします。



## ■コムケアは、活動の始点であったと同時に、常に戻るべき地点

### 濱崎 加奈子: 伝統文化プロデュース連 (京都)

京都で「伝統文化プロデュース 連」というチームを作り活動している。伝統文化に込められた知恵を、遊びながら学び広めていくというのが趣旨。現在40名ほどの仲間がゆるやかに連携しながらそれぞれの興味と時間にあわせて活動に参加している。

この活動、じつは第1回研究助成に応募する時に始まったと言っている。当時大学院生だった私は、コムケアの応募要項を手にし、「大きな福祉」という佐藤さんの言葉に出会う。

この考え方に惹き込まれるようにして、自分にも何かできないかと考え、友人に相談し、たどりついたのが、「伝統の知恵を生かす」ということだった。友人との共通関心事であった、<自らの内に伝統とのつながりを回復する>という命題に対し、「大きな福祉」というアイデアをいただいたことは大きかった。ひとつの道筋を得たような思いだった。



助成をいただいた年に大きな研究成果をあげることはできなかったが、その後の活動こそが成果だと自負している。小鼓筒の展覧会、京都の景観とまちづくりに関わる活動、花街文化研究活動、映像記録の作成と上映、茶会を通じた海外での文化交流、アーティストとのコラボレーション、伝統文化を深く知るための連続講座、大学研究機関と伝統技術保持者との連携プロジェクト等々、多岐にわたる活動を展開してきた。

ふと方向を見失いそうになるとき、「大きな福祉」という言葉を思い出す。自分たちのやっていることが、「大きな福祉」にかなっているかどうか。答えがイエスなら、間違いないと確信し、前に進む。

コムケアとの出会いは、活動の始点であったと同時に、常に戻るべき地点を得たことでもあり、その意味は大きい。

## ■原点は人のつながり

### 水野久美子: おんなの目で大阪の街を創る会 (大阪)

2003年3月、コムケアの助成金を受けて、大阪市天王寺動物園の調査していた私たちを、事務局長の佐藤さんが訪ねてくださいました。「みなさん、楽しんでますか?」との言葉に、アンケートをまとめる作業をしていた私たちは、「はっ」としました。やりたい!と思ってスタートした活動なのに、途中で発生するしんどさで、その気持ちを忘れてしまっていたのです。

活動を始めて14年。公共施設を利用者の視点で調査し、提案を出してきました。メンバーは街づくりなどには素人の40~70代の女性ばかり。そんな私たちが、どうして実現するような提案をすることができたのか。秘訣は、ずばり「人」!共感してくださった人を巻き込んで活路を見いだしてきたのです。

動物園への提案も、飼育係さんをはじめ動物園に関心のある人など53人が、テーマごとに分かれてわいわいがやがやワークショップをして、完成させました。



さまざまな立場の人と一緒に道を開いていく。そして共感の輪が広がっていく。このことはコムケアがめざす先にある「大きな福祉」ともつながっていると思います。

## ■「共創」から、新しい価値が広がり始めています

### 田辺 大: フォレスト・プラクティス (東京)

私の家族に盲ろう者が加わったことで、「盲ろう者だって、食べていかねばならない」という切実な課題が、創業のきっかけです。

「目と耳の両方の障がいがあっても、働けるお店を作ろう」と、一旦は店舗開店準備に注力し、2004年に失敗。地べたを這い回る地獄の日々が始まりました。

でもコムケアは、困ったときに適切な支援を下さり、今や、法人向けのオフィスマッサージ事業が成長中です。都内や全国規模の顧客先で、訪問マッサージ事業を始められるようになりました。

企業のメンタルヘルス対策として、会議室などを活用し、社内でもマッサージを受けられ、心身の病を予防できます。国家免許を持つ障がい者マッサージ師は、専門家として医学知識を駆使して、ハイグレードのマッサージを行い、従業員満足(ES)の向上に効果的に貢献できます。

コムケアのモットーである「共創」から、新しい価値が広がり始めています。

## ■コムケアと出会って活動の世界が広がった。……………

### 谷口 新一:あそあそ自然学校 (富山)

あそあそ自然学校では、平成17年度にコムケアから助成金をいただき、コミュニティツーリズム事業を行った。

このコミュニティツーリズム事業によって、東京のNGOを退職し、実家である富山に帰省し、現在、コミュニティシネマの企画運営している女性がいる。私にとっても未知の事業であったが、彼女にとっては人生の転機ともなる大きなきっかけであった。

さて、私はコムケアとつながるまでは、富山の専門家として、富山ではオンリー1の存在になるべく努力していた。ある意味、井の中の蛙であったわけだが、むしろ井の中の蛙の方が深堀できていいのだと自分を妙に納得させていた面もあった。

しかし、コムケアを知り、コムケアの助成を受けるためのプレゼンに参加し、お金よりつながりを大切にすることによって感動するとともに、東京や全国各地にすごい活動があるなど当たり前のことを認識した瞬間、世界が広がったのであった。



他の助成金にはない、つながりや支えあいを大切にすることに共感しながら、今もメーリングリストでつながっていることに感謝している。

これからもみなさん、よろしく!

## ■コムケア～それは“変容”の場……………

### 吉田 高子:音のボランティアグループ・花音 (大阪)

コムケア仲間のみなさん、こんにちは。音のボランティアグループ・花音です。

このたびの活動報告書への寄稿にあたり、あらためて私たちのこれまでの歩みをふり返ってみることにしました。

私たちの活動は、コムケアから助成という形で応援を受けることになったことで、それまでとは異なる色合いを帯びることになりました。それは、単なる自分たちの中から湧き上がる想いをもとにして、ある意味で、勝手な思い込みと熱意の赴くままにといった感で動いていたものから、社会的な責任を持つ存在になったということです。

助成を受けるからには、必然的に、助成先に対して報告を行わなければなりません。すなわち、やったらやりっぱなしでは済まない、ビジョンと実行力、さらに、説明責任をも含む社会性を伴う存在で

あらねばなりません。特に、コムケアの助成を受けることには、支援先を決めるコンペ会場にいる市民の皆さんからの支持と期待を託されるという意味もあります。

コムケアとの出会いは、私たちの活動が、形態的に、そして、社会的に、それまでとは大きく違ったものになる契機となりました。

また、コムケアとの出会い、そして、今日までのおつきあいは、活動そのものの形態や社会的意味における変化を私たちにもたらしたのみならず、コムケアを媒介として、様々な想いや方向性を持つ活動団体・人と出会い、結びつくことによって、私たちの内面にもさまざまな変化をもたらしています。

コムケアは私たちにとって、そうした変容をもたらす場であり、今後も私たちは、変容しつつ歩み続けていきたいと考えています。

## ■「つながり」を意識した活動へ軌道修正します!……………

### 浅野 良雄:日本対話法研究会 (群馬)

これまでのコムケアとの関わりの中で、催しには、もっぱら浅野だけが参加していましたが、今回のフォーラムには、新潟や福島で活動している会員も参加してくれたので、会としては画期的な前進です。

私たちの活動は、これまで、〈対話法〉の概念や自分たちの活動を「知ってもらう」ことに重点を置いてきましたが、今は、他団体との「つながり」を意識しています。

つまり、〈対話法〉を実践してもらう機会を提案することや、他団体の活動に協力する「場づくり」に、活動の重点をシフトしていこうと考えています。〈対話法〉は、ユニバーサルスキル(これは浅野の造語です)なので、どんな場面でも使えるのが特徴です。

私個人は、もともと自殺予防に強い関心をもっていました。その思いに会としての活動をプラスすることで、たとえば、自殺対策支援センター「ライフリンク」さんや、東尋坊の「心に響く文集・編集局」さんの活動に協力できるのではないかと考えています。



さらに、〈対話法〉の紹介や、会の活動を、「サイクルリング」さんや「地域と市民の放送局」さんと連携して広報することも考えられるでしょう。

今回のフォーラムに参加して、こんなことを考えました。

## ■コムケアは終わりのない物語。でも確かな足跡を残していける物語

### 三浦 みか:比良里山クラブ (滋賀)

今年3月に滋賀でコムケア地域フォーラムを開催させていただきました。声かけさせていただいた広瀬さんや丹波さん、高林さんとの出会いはコムケアのMLでしたが、お出合いするまでに時間はかかりませんでした。

とにかくどなたも熱い思いをお持ちで、共通していたことは、幼い頃や若かったときのご経験が活動の目標に大きく影響している点です。かく言う私も同様、40年前、里山に流れる川で見た一匹のピワマスがここまで連れてきてくれました。

それはノスタルジックな感情に留まるものではなく、「自分の居場所探し」につながるきっかけであったように思います。

フォーラム参加者の多くは環境や自然の分野で活動されている方たちでしたが、企業サイドや行政関係の方もおられて貴重なお話が聞けました。中には「コムケアって何?」とご関心をお持ちになった人も多く、改めて活動報告書やHPをご紹介する一幕も。「私はケアという言葉が好きじゃない」「佐藤さんってどんな人?」という質問を受けて、正確にお答えできなかった自分の不甲斐なさを悔やみました。

そんな折、今回の寄稿メールが届き、ひとこと書かせていただきたく思いました。

コムケアがどのような集まりで、どんな活動がされていて、その理念が何か。HPに掲載されている3つのキーワードから、今回改めて認識させていただきました。中に、「みんなが汗と知恵を出し合い」というフレーズが何度か出てきます。

今回のフォーラムで私自身が強く感じたことは正にそのものでした。(谷に不法投棄されたゴミについて、企業・行政・市民がそれぞれに出来ることは何か考え行動すること。分野は違っても持っている情報やスキル、アイデアを出し合える集団を滋賀に作りたい)。

自分が身を置くフィールドを軸足にしなが、視野を広めたり手をつなぐ人々を増やしたり、助け合ったりできる都合のいい関係。でも集まれば居心地がいい仲間たち。そんな集団を滋賀に作りたいと考えています。

共創型相互支援という言葉もぴったりです。そして重荷のなかにある宝物や新しい価値を模索していくことこそ、日々の活動に活力を与えてくれるのだと信じています。

コムケア物語は終わりのない物語。でも確かな足跡を残していける物語なのです。

ふとそんなふうに感じました。

## ■「金の切れ目が縁の始まり」

### 西川義夫:共生支援センター (福岡)

コムケアに参加するようになって感じていたのは、「金の切れ目が縁の始まり」という発想の確かさへの共感でした。例えばコムケアの助成金選定の仕組みなどにも、その考え方は明確に現れています。

「世の中銭」の危うさの中で、「いいや、世の中人間じゃ」と言い切るには、人と人との結び合いの可能性や、その広がりの中での

社会の成り立ちなど、さまざまな問題意識が整合されていなければならないでしょう。

さまざまな領域でのコムケアの活動が縦に横に広がって、そこに集う人々の輪が益々大きくなるよう、これからも少しずつ前に進んでいきたいと思います。

## ■『何があってもだいじょうぶ』

### 高石 友江:ゆいの家 (群馬)

この言葉は、これまでの活動から私自身実感した言葉です。かつて教員をしている中、自分の素直な思いを「風の大地」という通信に書くようになりました。そして「生きるってなんなんだろう」と、積極的に講演を聞きに行ったり、開くようになることで、学校や教員という組織に対してどんどん溝が深まり、このままいくと自分がなくなりそうで結局、退職しました。

退職してからは、「ゆいの家」という小さな居場所を開くようになりました。一緒にお茶を飲んだり、お昼を食べたりするただそれだけの場所ですが、様々な人々から本音の言葉が聞けました。毎

月やっていたミニ講演会では、講師と参加者という区別がなく一緒になって語り合いました。

そんな多くの人との出会いや確かな学びの中から「何があってもだいじょうぶ」と思えてきたのです。今は玄米菜食を中心にした一汁一菜のランチと飲物を提供する場をします。食は、生きていくための基本です。そして本当の学びは、ばらばらだったものを繋げていくことです。食を糸口にして、今後もより多くの人との出会いと学びの場にしていきたいと思っています。

## ■コムケアに出会って今考えていることです。

### 永井 佳子:高齢者外出介助の会 (大阪)

コムケアって助成の一つという認識でした。住生の井上さんから紹介いただき出そうと思いつつ時間が数年過ぎていました。

そして女の目で大阪の街を作る会の小山さんの誘いで第一回の大阪でのコムケアフォーラムで佐藤さんに出会いコムケアを理解しまし

た。そして、多くの団体とゆるやかな連帯や協働の中で団体の存在も光ることを知りました。

高齢者外出介助の会は14年目に入りますが、後継者を育て切れずに悩みは深いのですが、若者の団体と出会い将来はこの団体

と組み会の統合も視野に考えられるようになりました。選択肢の一つです。私たちのミッションが消失するのではなく生かされ拡大されたらと今は考えています。

また、もう一つ、活動の広がりとして、若年認知症の会の事務局長さんが来られ支援の話だったのですが、私たちは緩やかな連帯か

ら支援へとまた社会的な理解が進められるような情報の発信が私たちの関わりを通してできたらと願っています。

高齢者外出介助の会としてがんばるのも素晴らしいですが、もっと関わりを拡大し、打てば響くような関係が結ばれていけば、社会が変わるのも夢では無いと考えます。

## ■コムケアに関わって得たこと

### 横田能洋:茨城NPOセンター・コモンズ (茨城)

わたしたちのNPOは、茨城でNPOという道具をつかって何かを実現したいという人や組織を応援しようと運営相談や研修を主にしています。

福祉分野でNPOに取り組む方との接点で地域福祉というテーマに直面しました。福祉を住民主体、地域中心で進めるという国の方針のもとで障がい者プランや地域福祉計画を各市町村でつくることになりました。それも住民参加という新たな方式で。

わたしたちは、この計画づくりに参加することで、NPOの事業が行政計画にも位置付けられ、地域の人々との連携を広げられると思ったのです。ところが、殆どの自治体が計画づくりに動きませんでした。

合併があるから、予算がない、住民参加でどうすすめるべきかわからない、といった事情もあったようです。ならば、地域福祉を住民参加ですすめていく方法を自ら実験し、自治体の計画づくりを担える市民を増やす事業をしてみようと考えたのです。

まさにコムケアの助成事業がぴったりだと思って申請し、その助成を受けて地域福祉の集いを開催したり、自治体へのアンケートなどを行いました。手探りでワークショップを行ったところ、この参加

型の方法なら、行政への要望だけではなく、住民や当事者からいろいろな提案や主体的な動きが出てくるのだということがみえてきました。

こうした事業を全県でやってみようという話に県も協力してくれて、地域福祉プロモーター養成講座が運営委員会方式で3年間実施されました。約300名の方が、講演だけでなく、実際のNPOの現場で実習や取材をしたり、助け合いマップづくり、地域で住民ができる活動企画ワークショップなどを行いました。NPO、行政、社協、企業の枠を越えて多くのつながりができたことがよかったと思います。

こうした事業ができたのも、コムケアのプレゼン大会のお陰だと思っています。活動現場は違って同じような想いを持つ人同士が励ましあい、刺激し合える場やつながりがあることがとても大事だし活動をささえる力になると実感しました。

最近では、ひきこもりがちな青年の社会参加にも取り組んでいます。今後も、地域で顔のみえるつながりを広げていこうと思っています。

## ■さまざまな専門領域は連携しなければ現実は見えてきません。

### 大崎 元:「山谷」ふるさとまちづくりの会 (東京)

東京・山谷地域を基点に、ホームレスの方々への居住支援というテーマに取り組んでいます。私たちの会は建築やまちづくりの専門技術者が中心で、地域で実践的な福祉支援活動をするNPO自立支援センターふるさとを補佐するという立ち位置です。

これまでいくつかの中間居住施設(サポーターハウス)を実現し、そうした経験から「福祉」にとって住居の大切さを感じてきましたが、ここに来てちょっと不安なことがでてきました。それは、モノとしての住居を扱う建築や都市の専門家の人たちの中では、福祉を必要とする生活者のイメージが思った以上に貧困だということです。バリアフリー対象の障害者や高齢者程度の像しか話題に上り

ません。

もちろん、専門家と呼ばれる人たちが福祉対象者の多様性を知らないわけではありません。でも、リアリティをもって生活者イメージを描けてはいないようです。逆に、福祉の実践者や専門家と呼ばれる人たちは、住空間を把握することが私たちの想像以上に苦手なようです。

けれど、現実の課題に少しでも答えを見出そうとするなら、さまざまな専門領域を横断して連携しなければならないことは確かです。

他領域の現場を通じてヒト・モノ・コトのリアリティを学ぶこと、そこから始めたいと思います。

## ■親子で参加する「こどもフォーラム」を開催して

### たたら 康恵:音楽療法NPOムジカトゥッティ理事長 (香川)

子どもが健やかに育つことのできる社会が、真の豊かな社会と言えるのではないかな。

そうであるなら、何よりも子育て中の母親が心豊かになるようなフォーラムの開催が求められる。

コムケアの助成を受けての地方フォーラムは、心をつなぐコミュニティケアをめざして、とのコンセプトで「こどもフォーラム」として実施した。

講義には、6ヶ月の乳児を連れた母親が祖母と参加、全員聴覚

障害をもつ家族は筆談・手話により参加を楽しんだ。社会参加の機会が広がると、個々人の意欲や社会性が急速に伸びることが見受けられた。

音楽という理屈によらない直接的な体験は、誰にとっても大きな喜びや心の広がりをもたらす。

男性がこうした催しにもっと参加するようになると、社会はさらにしなやかになるのではないかな?

## ■四国遍路とお接待のころ。.....

西崎 幸男:エコ・ライフ夢幻村(愛媛) <http://www.h5.dion.ne.jp/~umaki/>

“おせったい”とは、四国4県にある88カ寺を歩いてお参りをす  
るお遍路さんに、お茶や食べ物、小額のお金を提供する昔からの風  
習です。昔は路銀をもたないお遍路さんが多かったので、道中の人々  
が支援してきた文化だと思います。現在は観光バスやタクシーでの  
お参りが大半です。お金持ちの観光旅行の遍路に“おせったい”が  
必要でしょうか?疑問に思います。でも“おせったい”は個人や組織  
として各地でつづいています。

私達の活動は、“地球と人間に配慮し、余った時間・お金・エネ  
ルギーを配慮するという目的に使う”ことを理念としています。荒廃農地  
の開墾から不登校生のフリースペース、障害者との畑の青空デイ、

そして宮前川の清掃活動、今年度は四国88カ寺爽やかトイレ事業  
を計画中です。世界遺産に申請する前に、遍路道のゴミ、トイレの  
清掃等が先決だと思っています。

この活動も“お接待のころ”にとらえ、四国遍路地域に関わる  
様々な「人」と「人」が、つながって一緒に実施したいと思っています。

環境も福祉も別々ではだめだと思っています。その点コムケア活  
動の「大きな福祉」には共鳴できます。様々な分野で活動する団体  
を知る機会を得る事ができます。

その「つなぎ」のためにもコムケア活動は必要だと思います。  
今後ともよろしくお願いします。

## ■コムケアとの不思議な縁。.....

太田 差恵子:NPO法人パオッコー離れて暮らす親のケアを考える会(東京)

コムケアとはじめての出会い、コムケアのオープンとき。  
突然、見ず知らずの佐藤さんという男性から連絡をいただきました。  
私がパオッコの活動をはじめたのは1996年。2001年ころは、会  
員も増え、マスコミにも頻りに紹介され、超多忙な時期でした。そ  
んなせいもあり、「えっ、コムケア? それ、なに?」と、お声掛け  
を一蹴(ごめんさい)。

でも、「それ、なに」と思ったはずなのに、頭の片隅に残っていま  
した。

そして、2005年にNPOとして法人化するにあたり、図々しくも  
その存在を鮮明に思い出し、助成に応募。助成金をいただきました。

さらに……。2006年2月からは、シェアオフィスに参加し、  
現在は机を並べています。

オフィス同居にあたっては受け入れてもらえるかとドキドキ。パオ  
ッコは複数のスタッフが出入りすることもあり、「トラブルを起こさない  
よう、じゅうぶん気をつけます」と緊張しつつ言いました。すると、  
「トラブルが起きたら、そのときに考えればいいよ」という返事。肩  
の力がすーっと抜けました。

コムケア、パオッコ、親子間……。何にでもいえることですが、  
「ケア」って、「受容」し関わりあって生きていくことなのでは……。  
と思うこのごろです。

## ■コムケア仲間のつながりはいつまでも。.....

南 秀之:はまなす「地域交通」研究会(新潟)

コムケアの皆様、ご無沙汰しております。はまなす「地域交通」  
研究会(新潟市)の南です。

コムケアセンターからの助成金をいただきながら、住民主導でコ  
ミュニティバス導入を目指してきました。全国では多くの住民バス(形  
態は実に様々です)が運行していますが、私たちの夢は未だ実現に  
至っていません。私たちが目指していた路線が、この3月から導入さ  
れた新潟市の区バス路線と大きく重なってしまったことが主な要因  
です。区バスと、私たちが目指してきた「住民自治の具体化モデル」  
としてのコミュニティバスとの理念の隔たりが、バスの運行にどう反  
映されるのか(どう違ってくるのか)。地域の人たちを巻き込むには、

そこをきちんと説明できなければなりません。

そこでコムケアの皆さん。みんな同じような壁にぶつかっていませ  
んか。たとえ取り組むテーマが異なっても、「仲間を増やすには  
どうしたら良いか」という点で、共有する何かコムケアにはあると  
信じています。

私たちのホームページでは、ブログを設けていますので気軽に投  
稿してください([http://www.geocities.jp/pwqbt700/hama-top.  
htm](http://www.geocities.jp/pwqbt700/hama-top.htm))。

これからもコムケアのつながりを大切にしていきたいと思いたす  
ので、よろしくお願いします。

## ■コムケアがこんな方向に向かってほしいという夢を書きます。.....

折口 智朗:特定非営利活動法人かすたねっと(広島)

こちらでは5月から障害者地域活動支援センターを立ち上げたい  
とのあせる思いとはうらはらに、人・モノ・金のないないづくしで空  
回りばかりです。

しかし、例えばお手洗いを作りたいとすれば、大工さんと建築資  
材が必要となりますが、こんなとき市民活動支援人材バンクに登録  
された近隣の大工さんや日曜大工が趣味の方を紹介していただけた

り、「材料は中古だけど我家や会社の倉庫に眠っているのがあるよ!」  
などという物品調達バンクなるものが、もしもあったならば、どれほ  
ど助かるでしょうか。

また、「新規の事業を立ち上げたいけども税務・会計・労務のどこ  
から手をつけたらよいのかわからないので、誰か専門家の人もしくは  
経験者の方知恵を授けて!」という市民活動支援人材バンクやソフ

トバンクがありネットワークで共有していったとしたならば。

NPO や市民活動の歴史が浅い我が国では、まだまだ基盤整備が充分とはいえず社会貢献どころか、その日暮らしの団体がほとんどではないでしょうか？

この調子では、いくら団体が生まれても育ちようがありませんし、大きな福祉を作り花を咲かせるには、まだまだ土作りが大事な時期ではないかと考えています。

## ■『ユースカフェ in 神戸』は発信し交流しつづけています。…………… 飛田 敦子:ユース・ステップ『ユースカフェ in 神戸』実行委員会 (神戸)

2005 年度にコムケアからイベント助成をいただき、『ユースカフェ in 神戸』～お茶でも飲みながら NPO・NGO のこと語りませんか～を開催しました。

神戸市内のカフェを貸しきり、NPO や NGO で働く若手スタッフをゲストに迎え、お茶を飲みながら市民活動に気軽に触れることのできる一日を演出しました。神戸・阪神間の NPO で活躍する若手スタッフを中心に実行委員会形式で開催したため、ネットワークも

コムケア自身がそれを行わなくても、それぞれの専門の NPO が生まれてきて情報の提供の対価としてきちんとお金を貰うことのできるシステムを作ることはできないでしょうか。

これまで、NPO 支援はどちらかといえば特定地域内のみの支援と限定されていたように思いますが、地域格差解消のためにも全国ネットワークでお互いに必要なさまざまなハードやソフトを提供しあうこともできるのではないかと！

また、国内情報だけではなく海外からの情報もハンディを持つ人達にとっても支援者にとっても今一番知りたいものです。

広がり、ノウハウの蓄積もできました。

その後も、実行委員や新たなメンバーも加わって FM わいわい (神戸市長田区を中心に活動するコミュニティ FM) での発信や交流を続けています。



## ■ドナーファミリーキルトは、国内各地、各所を旅しています。…………… 間澤 容子:日本ドナー家族クラブ (東京)

生命が(生きる生命も、去りゆく生命も)日頃、どれほど大事にされているか、…。

このことに、みんなで思いを寄せ合う日、生命の大切さを考える日として日本記念日協会に認定された「生命・きずなの日」が今年も巡ってきます。

“あなたを忘れない”という合い言葉のもと。(今年は、5月19日全電通ホールにて開催。)

我娘の意思を尊重し、6人のアメリカ人のセカンドチャンスに“生命の贈り物”(臓器提供)をして、ドナー家族となったことが、コムケアとの出会いの始まりでした。

移植医療ではドナーが第一義だと思うが、欧米に比べ、残念なことに日本の社会では、メディアでもまだ、レシピエント側からの発信に比重があると私は感じている。

私の拙い話に、時間を割いて聞いてくれたのが、事務局長の佐藤修さん。「僕が今まで、知らなかった福祉があった」と。

“生命の贈り物”をしたドナー(臓器提供者)とその家族は、時

には社会から好奇の目にさらされる。ドナーとなった愛する家族の喪失の痛みの上に、さらに傷ついている家族もいる。

このような家族と痛みを分かち合い、お互いに励まし、ドネーションの社会的理解の向上を目指し会員相互の交流の場として、2000年9月に「日本ドナー家族クラブ」を設立した。

以後、毎年、5月17日(ドナーの日)を「生命・きずなの日」として、生命の大切さや、絆や、人は、一人で生きてはいないということを考え合う日として、そのための記念のイベントを開催してきた。

コムケア資金助成の協力で制作した、ドナーファミリーキルトは、国内各地、各所を旅している。

この記念祭にはコムケアの仲間からも参加、発言をしていただいた。この間に、会に寄せられた、たくさんの賛助と支援一。

小さな力の寄り集まりで、コムケアの目指す『大きな福祉』の輪が広がり、社会がどんどん優しくなっていくことを私は心から願ってやまない。

## ■アッチもコッチも繋がって…………… 須田 正子:よりあい\*ええげえし (埼玉)

コムケアとの出会いは全国マイケアプラン・ネットワークの一員として島村代表の後にくっついていった5年前。主婦の日常とはかけ離れた刺激的な空間だったけれど、何回か足を運ぶうちに、顔見知りが増え視野も広がった。佐藤修夫人と趣味のコーラスの指導者が同じという意外なつながりがあったり、大きなご縁や偶然の妙を感じる事も度々だった。

身近な地域でのボランティア活動でも多くの出会いに恵まれてい

るけれど、全国マイケアプラン・ネットワークの仲間、コムケアでの体験、そのどれもが関係し合って、今の私が居るんだなあ、と実感している。

行政との協働を謳った健康づくり施策に迷わず参加したのも、これらの経験があったから。

ちょっと忙しいけれど大丈夫!おばちゃん力で楽しんじゃおう!

## ■大騒ぎしながら、面白いこと、いっぱい、やってます。

斎藤 ちず:NPO法人コンカリーニョ (札幌) <http://www.concarino.or.jp/>

コンカリーニョが、コムケアにお世話になったのは、2003年度の支援プログラムでした。「自分たちの劇場を復活させるんだー!」と、大騒ぎし始めた頃です。選考会のプレゼンテーションでも、プチワークショップを実際にやって、大騒ぎ。コムケアの仲間になって、いろいろな地域のいろいろな分野の活動のお話を見聞きしていると、私自身が癒されたり、励まされたり。素敵な「縁」をありがとうございます。我々は文化系の活動団体ですが、社



会の中の「元気づけ係」になればいいな、と思っています。

大騒ぎをしていた劇場再建、皆さんの力をたくさん借りて、期待を受けて、「生活支援型文化施設」の名前をいただき、再オープンしました。まだまだ生まれだての劇場ですから、これから丈夫に大きく、健やかに育てていかなくちゃ。がんばりまーす!北海道に来たら、ぜひ、遊びに来てください。

またまた、大騒ぎしながら、面白いこと、いっぱい、やってます。

## ■死んじゃだめ・・・!

茂 幸雄:NPO心に響く文集・編集局 (東尋坊)

「命」を粗末にいませんか・・・?

「命」をもて遊んでいませんか・・・?

「命」をネタに金儲けをしていませんか・・・?

この人間社会に生まれたとき、貴方の周囲の人はどんなに喜んでしょう・・・! 我が子をこんな人間に育てたい! こんな仕事をさせたい! こんな家庭を持たせたい・・・etc

なのに・・・! 長い人生の途中で進路を見失い、挫折し、故意に交通事故を起こし、列車に飛び込み、高い岩場から飛び降りるなど、自分の命を粗末にしている人がいます。学園内で、臭い・キモイ・ばい菌・・・などと言って相手の命をもて遊ぶ人がいます。“ここが有名な自殺の名所です”等と謳って観光客を募り、人の命をネタに金儲けをしている人がいます。

世界に誇れる“福祉国家日本!”

私達の団体も、皆さんと共に日本人の底力をコムケア活動に結集し、命を大切にしたい生き心地のよい社会創造に向けて努力しています。



## ■「生き心地の良い社会」の実現をめざして

清水 康之:NPO法人ライフリンク (東京)

ライフリンクは、自殺対策という切り口から「生き心地の良い社会」の実現を目指しています。

「生き心地の良い社会」というと、非常に抽象的なイメージを持たれるかと思いますが。ただ様々な団体の方たちと協働しているというのは「活動の目的はイメージを共有しやすいもの」であるべきだということです。理解よりも「共感」してもらいやすいものであるべきなのです。

その代わりに、活動の中身は徹底して具体的であるべきだとも思っています。「法律作り」「分かち合いの会の立ち上げ」「報道を通じた啓発活動」など。私たちの目的に共感してくれた人や団体が、参画

の仕方を具体的に「理解」できるようなプロジェクトを提示しなければならぬとも考えています。

「イメージを共有できる目的」と「参画の仕方を理解できる具体的な活動」。その両方を示すことができ、はじめて自殺対策の「つなぎ役」を担えます。そのどちらかが欠けてしまっていたら、いくら連携を呼びかけても活動を発展させていくことは難しいだろうと思います。

「生き心地の良い社会」の実現をめざして。たとえ一歩ずつであっても、これからも確実な歩みを進めていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

## ■みんなでつくろう平和のミニ版画～スタンピング平和展

松本 れい子:スタンピング平和展 (名古屋)

私たちがこの活動を始めようと思ったのは、2001年9月11日アメリカで起こった同時多発テロが発端だった。その後、アフガン、

イラク戦争へと発展し、その他の地域でも紛争は続いている。わたしたちは、アートを通して人々の心に平和を訴えたいと思い、2001

年12月に初めてスタンピング平和展を名古屋で開催した。

5×5cmの小さな版に「平和」「親子」「命」をテーマに彫り、平和への願いをつないでいくという活動は続けられ、市民の彫った版画はもう1000枚を越えている。

大人も子供も、障がいのある人もない人も、絵を描くのが得意な人も苦手な人も、だれでもが参加でき、時間の制限はなく、評価

もない。そういう「たいらな関係」こそが平和をつくっていくことではないだろうか。楽しくアートに参加でき、平和への願いをつないでいくこの活動を今後も続けていきたいと思っている。

主宰者が2007年末東京に転居するので、2008年からは東京でも開催したいと思っているので、ぜひ協力してください。

■コムケア活動に背中押されて試行錯誤

大場 博子:NPO佐倉こどもステーション (千葉)

2004年「佐倉ミュージカルパフォーマンス」の初めての公演以来、昨年までに5回のミュージカルを子どもたちや地域の人々と一緒につくってきました。ほぼ4ヶ月間は毎週練習。本番が近づくと毎日のように顔を合わせる仲間たちは、まるで大きな家族のように仲良くなっています。

昨年の演出家は「みんなで高い山に一緒に登るよ。どんなことがあってもみんな一緒に頂上に立つよ。」と子どもたちに語りかけました。きつい斜面を登ろうとする時に、この言葉は大きな力をくれました。小さな声で自己紹介した子どもが、しっかりした声を観客に届けた。車椅子の子どもがエンディングでみんなと一緒に立ち上がった。なかなかダンスを覚えられない子どもが、あるとききれいにターン

した。

子どもたちにつきあっているおとなの醍醐味は、子どもがそれぞれの何かを越えた瞬間に出会えること。子どもたちをたくさんの方が支えてくださっていることもはっきりと感じ取れます。

また、舞台はお客様がみてくださることで「仕上がるのだなあ。」と、しろうとながら感じています。だれでもがわが子のように子どもたちを思い、自分の家族のようにお互いをおもいやっている。その気持ちが空間をあたたくしていきます。そういう「おもい」が日常に溢れるとしあわせだろうなあ。まちに子どもたちのミュージカルがあることが、おなじまちに住む人たちの幸せになるといいなあ、と夢見ながら手探り&試行錯誤でこれからも続けていきます。

■あなたの町に「寿衣を縫う会」を誕生させて下さい。

嶋本 保子:寿衣を縫う会 (大阪)

「寿衣を縫う会」は発足から5年目にはいります。

この間には結構注目をされ新聞やテレビで紹介されました。が、全てが多様化した時代において、個人の力で一方向に啓蒙していくことの難しさを感じています。

物としてみると必ずしも必要ではないかもしれない寿衣(死に装束)、しかし物を作るその段階において心や気持ちが熟成されていく効果があることを通して、命や風習の大切さを啓蒙していくかが課題です。

関わることから見えてくる、感じ取れる体験の必要性を強く感じま

す。人任せ、物任せにすることで私たちは多くのことを失いました。

これからの時代、あえて地域や親族がかかわらなければならない不便、不都合を取り入れることによりコミュニティを取り戻せるような仕組み作りを望みます。

「死」は終わりではなく、「死」との関わりから多くのことを学び生きる力をもらい次世代へ繋がります。

寿衣を縫うことは癒しになり、生きる力が生れます。

あなたの町に「寿衣を縫う会」を誕生させて下さい。

■コムケアで躍進!

別府 一樹:NPO法人トゥギャザー (大阪)

みなさん、こんにちは! NPO法人トゥギャザーです。

私たちがコムケア活動資金のお世話になったのは2004年度です。早や2年余りの歳月が経ちました。

お蔭さまでその後順調に活動を続けています。

トゥギャザーは障害者と社会の架け橋として障害者の自立と社会参加の支援活動を目指して1999年に設立しました。

障害者福祉制度が大きく変わる中、ノーマライゼーションの理念の実現のためにはみんなで共に助け合い支え合う社会づくりが必要です。私たちは「3つの活動」を通じて自立支援を行ないます。

「啓発活動」としてひとりでも多くの方に障害者福祉を身近な問題として考えていただく場として「ふれあいトゥギャザー」を開催します。

「販売支援」として施設の製品を企業のノベルティーにコーディネートします。そのためにトゥギャザーが中核組織になって施設がネッ

トワークを組んで共同生産します。

「住環境コーディネーター」障害者が自立しながら「まち」で暮らすためにグループホーム・ケアホームの建設をサポートします。

コムケア活動資金申請のテーマは紙漉きでした。「みんなで作ってみんなで売ろう」を合言葉にリサイクル手漉き紙を使っての卓上カレンダーづくりは4回実施しました。2007年のエコカレンダーは小磯良平画伯の油彩を使って1万セット作り大変好評でした。

障害者が自立するためには収入が上がるのが何よりも大切です。そのためにも私たちは売れる「ものづくり」を目指してモデル事業づくりにも今後も挑戦していきます。ご支援ください。

トゥギャザーのホームページをリニューアルしました。

是非ご覧下さい。

<http://www.together.or.jp>

## ■ 私たちの活動とコムケアとの出会い

### 豊喜 玲子:NPO法人なかよしねっと (埼玉)

私たちの活動は、障がいのある子どもたちが放課後や余暇・休日を集団で楽しく過ごすことを目的に、地域の障がい児をもつ親が中心となって立ち上げた障がい児のための放課後クラブが主体となっています。

障がいを持つ子どもたちは、健常の子どもと違い、学校から帰った後や休日に友達と遊んだり、自由に出かけたりすることが出来ません。どうしても家庭内で親と1対1の関わりが主になり、本来ならば地域の人や友達と関わりながら色々なことを学び成長していく時期に、自分の世界が広がっていかないのです。

障がいを持つ子どもたちは、日常生活にもさまざまな制約があります。普通の人たちが普通に過ごす、その「日常の普通」が困難であることの悩み。それは障がいを持つ当事者だけの問題ではありません。家族は自然とその子を中心とした生活になり、それは兄弟姉妹にも少なからず影響を与えます。

障がいを持つ兄弟姉妹がいるということは、本来ならば決して不

幸なことではないはずです。しかし今の社会では、当事者だけではなく家族の負担はあまり軽くはありません。そういったことを考えつつ、2005年にNPO法人となり、その活動のひろがりを考え出した時、コムケア活動を知り助成金に応募しました。

助成金の対象事業は、「障がいを持つ子どものきょうだいクラブ」です。きょうだいクラブは、障がいを持つ子どもたちの兄弟姉妹が、自分たちが中心となる活動に参加することによって自分たちが本当に楽しみ、お互いのつながりを深めたりすることを目的としています。

コムケアの助成金審査にあたり、プレゼンテーションの場では全国各地から来られた多種多様な団体の方々と交流を持つことができました。私たちの活動は生活地域を中心としたものですので、他の地域の活動の様子は得がたい情報です。

また、全国の同じような活動をされている方々を知ること活動への励みとなっています。

## ■ 『小さな一歩を大きな一歩へ』着実に進んでいます。

### 小川 伊津子:With ゆう (千葉)

私達 With ゆうは、コムケアとの出会いによって、子どもを亡くされた方への小冊子を作成することができました。目標はこの小冊子を悲しい出産があった現場でご家族に渡してもらおうことであり、ゆっくりではありますが着実に前に進んでいると感じています。

昨年参加したSIDS国際会議では、多くの方に見てもらおう事ができ、渡したいと言ってくれた医療者もいました。また、病院によっては私達との関わりをきっかけに、独自のマニュアルを作成するなどの対応を始めた所もありました。最近では、医療者や当事者の間で口コミという形で伝わり、小冊子を求めてくる方も増えてきました。少

ずつ活動が実を結び、医療現場が変わりつつあるのではないかと思っています。

しかし、今までの対応を変えるという壁を乗り越える事は、とても難しいと感じる時もあります。私達だけではこの壁を越える事は難しいかもしれませんが、手にとってくれた方々との繋がりをよりいっそう大きな輪へと広げ、この小冊子の趣旨や必要性をアピールして目標へと向かっていきたいと思っています。

そして、お産の現場が子どもを亡くした親にとっても優しい場所となるよう、私達も活動を続けて行きたいと考えています。

## ■ 「映画が結ぶ、さまざまな人々との出会いと交流」

### 平塚 千穂子:バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツ (東京)

シティ・ライツは、目の不自由な方々と一緒に映画鑑賞を楽しむ環境づくりをしています。「目が見えなくなったらあきらめるしかない。」と思われていた映画を、視覚障害者の方々にも、なんとか楽しめるようにできないか。と活動をはじめたのが6年前。

試行錯誤の末、たどりついたのが音声ガイド(見えるものを映画の台詞の邪魔にならないように解説するナレーション)や、字幕スーパールの朗読をサポートすること。それを一般のお客様と一緒に、映画館で聴くシステムを作ることでした。そのために必要だったFM送信機などの機材を、コムケアさんのご支援で購入させていただきました。

おかげ様で、今ではほぼ毎週末、都内近郊の様々な映画館で、鑑賞会を開催できるようになり、映画を楽しむ視覚障害者の方々もたくさん増えました。また、世代を超えた老若男女のボランティアが多数参加し、視覚障害者の方々や映画の感想やおすすめの映画の話などから自然な交流をもち、自分の得意なこと、好きなことを生かして、とても生き生きと活動をしています。

「人と一緒に観ることで、もっと映画が楽しくなる。」

そんなシティ・ライツの活動は、もはやボランティアの域を超えた趣味の活動です。

## ■ 多くの仲間と共に生き、助けあうことを目指して

### APFS (東京)

外国人支援団体 ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY (APFS) です。

在留資格はないものの、日本国内で強固な生活基盤を形成し、

祖国へ帰っても生活が困難な外国人に日本で暮らす権利(在留特別許可)を認めるよう入管行政に働きかけをしています。先に群馬県のイラン人家族の在留特別許可に関し、コムケア仲間の皆さんには

署名のご協力等、お力添えをいただきました。おかげさまで大学進学が決まっていた長女には許可が認められ、日本での生活が可能となりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

それぞれの活動を推し進めているNPO、NGOが情報を共有し

あい、社会を少しでも良い方向へ変革することができれば、これに越したことはありません。

コムケア仲間は、その可能性を秘めていると思います。

共生と共助。これからもよろしくお願いたします。

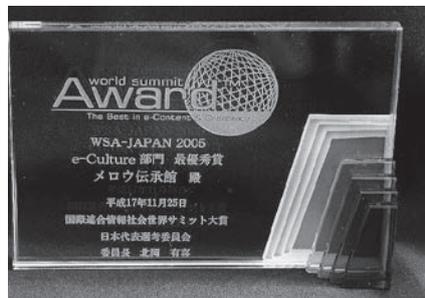
■一緒に日本の経験を世界に語り継いでいきませんか。

小池 達子:メロウ倶楽部会長 (東京)

メロウ倶楽部は1999年11月に、円熟した(メロウな)40歳以上の人たちに  
よって設立されたシニアネットで、会員は全国に散らばっています。

多くの会員は、第2次世界大戦を経験して、戦後の混乱期を生きぬいた時代の証言者でもあるので、自らの経験を後世に語り継いでゆきたいの思いから、「メロウ伝承館」を立ち上げました。コムケアと係わったのは、まさにこの立ち上げの時でした。

そして、2005年国際連合情報社会世界サミット大賞では、日



本大会WSA-JAPANの文化部門で最優秀賞を受けるに至っています。

【メロウ伝承館】<http://kousei.s40.xrea.com/xoops/index.php>

が、この経験を伝承できるハイシニアは減少の一途です。今後はハイシニアからの聞き取り、原稿の翻訳作業などに組み組んで、更なるデータの蓄積を行ないます。それにはコムケア仲間のご協力が大きな助力になります。

ぜひ一緒に、日本の草の根の声を世界に発信してまいりましょ

■和綿のちからをかりながら

井上 啓子:NPO 法人ガラ紡愛好会 (静岡)

私たちの活動は、佐鳴(さなる)湖をきれいに主婦のみなさんが環境の活動をはじめたのがはじまりですが、いまは未来の子ども達にガラ紡機動体保存で地域の伝統文化を伝え残し、和綿の栽培から地産産業の復興にと発展し、多くの地域の方々と一緒に活動しています。

和綿の栽培をお願いしてはや6年目に入ろうとしています。お陰様で毎年100か所近くのところで栽培していただくようになり、うれしいかぎりです。

子ども達も和綿の栽培から「いのち」を教わり、物の大切さ、仕事の大変さを学び、体験し、いのちのこと、環境のことをみんなで考えてくれています。

とかく目先の結果をはやく求めがちな私たちですが、和綿のおかげで多くの人たちと出会い、多くの人たちの笑顔をいただき、感謝しています。

人間・わたしたちが何かをしてあげるのではなく、自然のもつ大きなちからをかりて、いろいろなことを教えてもらい、助けられているのだと実感しています。

こうした活動を通じて、子ども達が、お年寄りが、一人でも多く元気に笑顔いっぱいになれるよう願っています。

ふりむいたら、ガラ紡機が稼動し、ガラ紡製品がいーぱいできていて、みんなの笑顔がいーぱい・・・と!!

■「海から海へ」と「大きな福祉」

阿部公輝・阿部愛子:NPO法人「海から海へ」(東京)

私たちは、障がいをもつ人から渡される豊富なものを宝物として共有し、そこから人間としての営みを学ぶことを基本姿勢として活動してきました。このような海から海への理念は、社会の問題を皆が共有し、知恵と汗を出しあいながら新しい価値を創出していくというコムケアの「大きな福祉」と共通すると思います。

コムケアからは、2004年度、「出前ミュージアム」に対する助成をいただきました。障がいをもつ画家の作品を街の歯科医院、商店、お寺などに展示し、人々が絵を介して交流するこのプロジェクトは、その後出前先を地元の調布から、南魚沼市、千葉市、神戸市へ広げております。



遠い出前先でも活発に活動しているコムケアの仲間がいらっしゃいます。皆さん優しく勉強家で実行力があり、私たちはその方たちとつながっていると感じ、励まされます。このようなつながりを創り出しているコムケアはすばらしいと思います。

おかげさまで本法人は本年3月、念願の美術館を設立しました。障がいをもつ人やその作品が人々に触媒として作用し、皆が本当のことに気づき、この社会が愛のあるコミュニティへ向かうため、美術館を拠点として今後も芸術、心理、障がい、教育、社会、福祉に関する活動を行ってまいります。どうぞよろしくお願いたします。

## ■コムケアと「つながった」幸せ

### 菅野 弘達: インキュベーションハウス株式会社 (東京)

私とコムケアとの出会いは、第2回コムケアフォーラムを応援団として参加したのが始まりでした。その後もコムケアフォーラムのお手伝いを続け、4年目からは予備選考のご協力もさせていただき、多く申請書類に目を通しました。それでも、“大きな福祉”や“コミュニティケア”の本質を理解できていなかったと思います。

コムケアと係って5年が経ち、我が共同オフィスには、第4回の活動支援プロジェクトに選ばれた“手がたり”、“パオッコ”の2団体が活動拠点として入居しています。各団体さんの活動を身近に触

れることで、今まで頭で理解しようとしていたことを、日々、肌で感じることができました。これは、会社人間として仕事だけに没頭していたら体験できなかった貴重なこととして、コムケアと「つながった」幸せに感謝しています。

これからは、この体験を元に自分ができるコムケア活動を立ち上げ、コムケア仲間みなさんと共に、“大きな福祉”の実現に微力ながら貢献できればと思っています。

## ■コムケアは、人生です。

### 宮部 浩司: コムケアデザイナー (東京)

僕が社会人になったのは、まさにバブル絶頂の時代。なんだか毎日が忙しく、入社して3年もたった時には心も体も疲れ果て、そのまま自分探しのインナートリップに出してしまったのです。思えば会社にはずいぶんと迷惑をかけました。一見華やかに見えても虚構の限りをつくしているような業務のなかが仕事だ！なんて自分にいい訳しながら毎日を送っていたのですから。悶々とした毎日の全てを他人のせいにしていました。

そんなわけで、「もっと実感のもてる仕事がしたい」と会社は辞めてはみたものの、次にやる事が決まっていたわけでもないので、デザインで食いつなぐ日々が始まりました。そんな時です。事務局長の佐藤さんに「コムケアセンターを立ち上げるので、オフィスをシェアしないか」と声をかけていただいたのは、それがこれほどまでに自分の人生の転機になるとは、思ってもみませんでした。

第一回の助成プロジェクトのお手伝いから始まったのですが、最初の選考会にはかなりびっくりしました。お恥ずかしい話なのですが、

そこで発表されている内容が全くもって理解できなかったのです。今から思えば、なぜ理解できなかったのか不思議なのですが、とにかくみんなが何を言いたいのか、何を訴えているのか、聞き取ることができなかったのです。

3年目ぐらいからでしょうか、やっとここで行われていることが分かかってきたのが、その内容が面白いと感じだしたのが。コムケアに集まってくる人たちは、誰もがみんなそれぞれの輝きを放っていて、魅力的な人ばかりです。サラリーマン時代にあった他人行儀の営業言葉はありません。誰もが自分の言いたいことを言っています。誰もが自分の感じている正直な気持ちを語ります。

仕事も生きていることの一部なんですから、自分のままで仕事しても誰も文句は言わないんですね。自分の人生なんだから。僕は、背中越しに行われているコムケアのミーティングでそういったとても大切なものを日々学びました。日本人もなかなか捨てたもんじゃありません。こんなネットワークがあるんだから。コムケアは人生なのです。

## ■「コムケアって何」の問いかけで、考えたこと。

### 須田敏子: 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授 (東京)

佐藤さんから「コムケアってなんだったのか」という寄稿を寄せてほしい、というメールをみて、この文章を書いています。

なぜ、すぐ文章を書く気になったか？それは、佐藤さんからは「コムケア」についての情報をメールで何度も送っていただいているのですが、内容をよく把握しておらず、まさに「コムケアって何？」というのが私の率直な感想だからです。

「コムケアってなんだったのか」という寄稿文の依頼は、改めて毎日やってくる情報の嵐(スパムメールも含めて、朝メールチェックの最初に行うとはスパムメールの削除です)の中で、ひとつひとつの情報にいかにも無頓着になっているのかを気づかされるべきごとでした。

情報だけでなく、数多くの人との接触があり、その中のひとりひとりのことをどれくらい考えているのかも同時に考えられました。

私の仕事は大学の教員です。社会人対象のMBAで人材マネジメントや組織行動論などを教えています。教員としての活動の中で、社会人の学生さんひとりひとりの仕事やキャリアの悩みに接する機会が多くあります。そのときどきは誠実に対応しているつもりですが、私の言動が相手に与える影響を考えると恐ろしくなることもありま

す。でも同時にそんなことを気にしては生きていけないという側面もあるのも事実です。

大学での仕事以外にも学会活動や社会活動などで本当に多くの人とコミュニケーションをもっていますが、ひとつひとつのコミュニケーションにどれくらいケアしているか、ちょっと立ち止まって考えさせてくれた突然の寄稿依頼のメールに感謝します。

コムケアの「コム」は「コミュニティ」のようですが、個人同士のコミュニケーションがコミュニティを形成しているということで、根っことは同じという感じがしています。

\*実は、間違っって須田さんに依頼メールを送ってしまったのですが、送信したら30分もたたないうちにこの返信がありました。そこで送信ミスに気づいたのですが、須田さんに謝った上で、了解を得て、掲載することにしてしまいました。まあ、これもコムケア的ということでお許しください。でも、こういう響きあう関係をもっと広げたいと考えています。ちなみに、この須田さんは私の古い友人ですが、コムケアのメーリングリストやフォーラムには参加していません。(コムケアセンター事務局長佐藤修)

## ■とても私的なことで申しわけありませんが……

### 竹澤 泰子:NPO法人カドリーベア・デン・イン・ジャパン (群馬)

4年前、コムケアの選考会のプレゼンテーションの前夜の夕食の  
おり、たまたま2人になったとき、佐藤さんから奥様のご病気につい  
て伺いました。

最後に「こんな私的な弱音を言ってはいけないな。」とあの笑顔に  
戻られました。

私も多発性リュウマチ関節炎という体中の関節が腫れて熱をもち  
激痛に悩まされている夫を残しての上京であることを話してしまいま  
した。

母を胃がんで見送った直後の発病でしたし、1人で抱えきれない  
気持を持っていた私にそっとお話し下さったのではないかと思います。

次に高崎の会でお会いしたときは夫の初七日の日でした。

それ以来仕事やCBDJの活動と心の整理がつかないまま走り、  
コムケアのお手伝いも出来ずにきてしまいました。

家族の闘病生活経験から病院や施設で心の支えを求めている  
方々にほんの一瞬でもベアが癒しを運んでくれたらと頑張ってます。

## ■佐藤さんと私、コムケアとイー・エルダー……

### 鈴木 政孝:NPO法人 イー・エルダー (東京)

1992年、山城経営研究所(KAE)のフィランソロピー研究会に  
参加した。指導講師の誠実な人柄、真摯な態度、人生に対する価  
値観に共感するものがあった。後に、第三の道を歩むことになる私  
は、大変な社会的知的資産を得たことを知る。その指導講師が、  
佐藤修さんである。

2002年のコムケア最終選考会で、『障害者の中古PC再生作業  
は、プライドの持てる仕事を提供できる。横展開により、全国の障  
害者にも提供する。[漁法を教えて、一生を養う]と、障害者と高  
齢者が一体となり[大きな福祉を越えた]社会システムを構築できる』  
と訴えた。

障害者再生作業所は5カ所に誕生した。これまでに、寄贈は4,180  
団体、13,500台を超えた。

NPOの約70%が活動停止状態と言われている。私は「利益の  
非配当」「雇用創出、GDPへの貢献」「NPOの製品は、変革した  
市民」を団塊世代、学生、コミュニティで訴え続けている。



これからのビジョン「新しい結び」づくり。佐藤さんがリーダーで  
あり続ける限り、卓越したリーダーシップを発揮して、間違いなく成功  
すると確信している。次の展開に必要なことは、敢えて申せば、新  
しいリーダーの育成、出現でしょうか。

## ■コムケアは私にとっての平和活動なのです……

### 佐藤 修:コムケアセンター (東京)

コムケアは「私の平和活動」です。

私も昔の「安保世代」ですが、平和の恩恵をたくさん受けてきま  
した。

しかし、最近の日本はどうもおかしな方向に進みだしているように  
思えてなりません。

そこで、40年ぶりにデモに参加したり、ピースウォークを楽しん  
だり、平和サロンを開いたりしはじめました。

そして、2年前、平和に向けての市民の結集の集まりに参加しま  
した。

さまざまな人の自己紹介を聞きながら、私もこれまでの活動の話  
をしようと思っていたのですが、口から出たのは「私の平和活動はコム  
ケア活動です」という言葉でした。

たぶん参加者には意味が伝わらなかったでしょうが。

人のつながりが切れたところから平和のほころびが生まれるような  
気がします。

もし相手に友人がいたら攻めていけるでしょうか。ビルを爆破でき  
るでしょうか。

「できる」と答える人もいるでしょう。しかし、少なくとも私には  
できません。

ですから、表情のある人のつながりを育てていくコムケア活動こ  
そが、私にとっての平和活動だと思ったのです。

コムケア活動に関わりだして、何が変わったかといえば、世界が  
変わりました。

自分の住んでいる世界が広がり、しかも豊かな表情が感じられる  
ようになりました。

その分、背負い込んだものも増えましたが、支えてくれるものも増  
えました。

今日も、私が元気なのはコムケアのおかげです。

コムケア仲間感謝しています。

## ■ケアップ君との出会い

### 橋本 典之:コムケアセンタースタッフ

ボクがニホンという森の中を歩いていると1匹のカエルと出会いました。

そのカエルの名前はケアップくんといいました。

ケアップくんはとても陽気で一緒にいると楽しく、ボクとケアップくんはすぐに仲良しになりました。

ケアップくんとはおしゃべりもたくさんしました。

ケアップくんの話には

「オオキナフクシ」

「カネノキレメガエンノハジマリ」…

とわからない言葉がありましたが、

「森に住む人たち誰もが安心して気持ちよく生活できるような活動を応援している」

と聞き、ボクはケアップくんにしばらくついていくことにしました。

ケアップくんと一緒に森を歩いていると

今までに出会う機会のなかったいろんなヒトたちと出会いました。

ボクがそのヒトたちに出会ったように、

そのヒトたちもケアップくんとの出会い、

そして出会いの輪を広げていると教えてくれました。

まるで、1本のヒモが結ばれていくかのように。

出会いによるこれらのつながりは、たくさんの物語を生みました。その物語はまた出会いを生み、そして、また新たな物語が生まれています。

ケアップくんと一緒に過ごす中で、

ボクは、最初にケアップくんが言っていた言葉の意味がわかるようになりました。

そのことをケアップくんに伝えようと思いました。

しかし、ケアップくんの姿が見当たりません。

よく周りを見渡しながらかくと、

ケアップくんは、今まで出会った仲間たちの胸の中にいました。

そして、ボクの胸の中にも…。

ケアップくんの結んだつながりは、たくさんのヒトを通して広がっていきました。

きっと今もどこかで誰かが、ケアップくんとの出会っているのでしょう…。



# 第4部 これからのコムケア活動

## ○これからもコムケア活動は存続させる価値があるのか

最近、資金助成プログラムはたくさんできました。そうした資金助成プログラムのおかげで活動を発展させているNPOもありますが、なかには資金助成を得ることが目的になっているようなプロジェクトも見られます。そうした本末転倒は、最近の社会の投影のような気がします。

それで果たして社会は暮らしやすくなるのか。コムケア活動が目指しているビジョン、みんなが気持ちよく暮らせる社会は実現するのか、時々、心配になることもあります。

しかし、それと並行して、NPOを支援する仕組みや動きも増えてきています。NPO同士のつながりも、最近では広がっています。NPOの自立や新しい役割に関する議論も広がりだしています。

それはとてもうれしいことですが、その反面、そうした動きのなかで、果たしてコムケアは必要なのかどうか、という気もしてきます。「あるにこしたことはない」という程度の存在でしかないのであれば、苦勞して持続させることもありません。

そういう状況の中で、次の「コムケアのかたち」を常に考えながら、今年は活動を展開してきました。

## ○次の「コムケアのかたち」

「コムケアを存続させるべきか」というテーマで議論したら、たぶん「存続」になるでしょう。しかし、大切なのは、存続ではなく、実体です。

誰かがお守りしたり、企業からの継続的な支援に依存したりすることで存続させることは避けたいと思います。存続させるのであれば、参加した人たちが、汗と知恵を出しあっても存続させる価値があるようなものでなければいけません。

しかし、それぞれに自らの活動で目いっぱいになりがちな人たちが、果たして自らも当事者になって持続させていく仕組みを求めているのかどうかは、迷うところです。

そうした「迷い」のなかで、今年度はいくつかのフォー

ラムを開催してきました。そして、そのフォーラム（とそれへの反応）を通して、コムケア活動で培われてきた「つながり」を実感させてもらいました。みんなが主役になって使い込んでいける舞台（オープンプラットフォーム）こそが、やはり次のコムケアの「かたち」と改めて確信しました。

参加したメンバーそれぞれが主役になって、その舞台を育てていったら、それこそ社会のインフラ（コムケアフォーラム2007での田辺大さんの発言）になるかもしれません。少なくとも、それを目指すことはできます。100年かかれば、社会の一翼を担える文化になるかもしれません。

しかし、その一方で、オープンプラットフォームの難しさも体験しています。参加者が主役になって仕組みを活かし育てていくことは、頭で考えるほど簡単ではありません。「コモンズの悲劇」という有名な話がありますが、みんなで使える仕組みは、みんなで育てることがない限り、次第にやせ細っていきます。

コムケア活動が目指している社会は、「お互いに気遣い合いながら、それぞれが出来る範囲で汗と知恵を出しあう」社会です。その関係が、コムケアのネットワークのなかですら実現できないのであれば、そのビジョンは絵に書いた餅でしかありません。コムケア活動は消えていくことになるでしょう。

しかし、それもまた「良し」とすべきでしょう。時代の変わり目には、さまざまな試みが起こりますが、そうした挑戦の中で、残るべきものが残っていきます。コムケアが残らなければならない理由は全くありません。

## ○新しいコムケアの物語が始まります。

コムケア活動も7年目に入りますが、7年目はそうした可能性を意識しながら、自己組織型の「オープンプラットフォーム」に向けての新しいスタートにしたいと思います。

それが成功するかどうかはわかりません。しかし、成功するような努力はしたいと思います。そこで、コムケア活動に意義を感じている人たちに声をかけて、これからのコムケアをどう育てていくか（成り行きに任せることも含めて）を議論することから始めたいと考えています。

その呼びかけは、コムケアフォーラム2007で呼びかけさせてもらいました。6月にはその第1回を開催する予定です。

この報告書を読まれて、関心を持ってくださった方がいたら、ぜひ参加してください。コムケアセンターまでご連絡いただければ、ご案内をさしあげます。

途中からの参加も大歓迎です。もちろんこれまで縁のなかった方も、です。

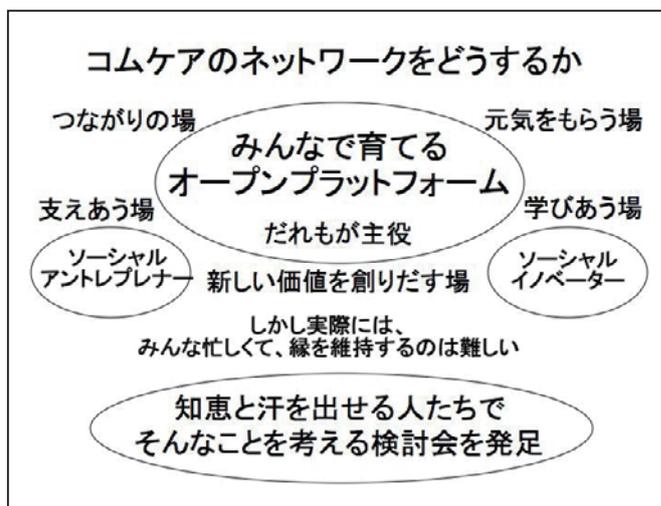
参加すると、きっと汗と知恵が少し必要になりますが。

また新しいコムケアの物語が始まります。

今度はどんな物語になるでしょうか。楽しみです。

その物語をご一緒してくださる方は、ぜひコムケアのメーリングリストに参加してください。

お会いできるのを楽しみにしています。



## [コラム]

# イベントはコムケア仲間の つながりを育てる場

コムケアの6年目は、イベントを中心に活動を展開しました。

コムケアでは「つながり」にこだわっていますが、イベントはつながりづくりにはとても大きな威力を発揮します。

まず、企画段階でさまざまな人がつながります。特にコムケアセンターが主催するイベントのほとんどは、コムケア仲間に声をかけて実行委員会を発足させますので、さまざまな活動に取り組んでいる人たちの「共創」が始まります。最初に構想していた内容が、さまざまな人たちの議論によって、大きく変わることも少なくありません。そうして生まれた新機軸はたくさんあります。

イベント当日もまた、さまざまなつながりが生まれる場です。支援する側と支援される側とを分けないコムケア活動では、イベントの会場設営でも参加者に汗をかいてもらうことが少なくありません。一緒に汗をかけば、つながりは太くなります。

イベントでつながったグループが一緒になって新しいイベントに取り組む動きもでてきました。

イベントは知恵と汗を出し合う場としてはとても大切な場だと思っています。

## [コラム]

# コムケアでは、 こんなことを大切にしています。

### ■個人の表情や思い

コムケアは、表情のある個人のつながりを大切にしています。ミッションや役割も重要ですが、その基本にある個人一人ひとりの事情や思いはもっと大切です。福祉には表情があり、人によって受け止め方はそれぞれ違い、画一的な制度や取り組みでは解決できないことがたくさんあります。コムケアのネットワークは、個人的にもお互いに思いやれる、あたたかな場にしていきたいと思っています。

### ■お金に頼らないつながりづくり

NPO活動にとって資金調達の問題は悩ましい問題です。それこそがNPOの死活問題だという人もいます。しかし、そもそもNPO活動はお金中心社会からの脱却を目指していたのではないか。お金の依存しない姿勢をもっと大切にしてもいいのではないか。コムケアでは、お金に頼らない支えあいを大切にしています。経済的な自立は重視していますが、金銭一本やりの事業ではない「事業」があるはずです。

### ■異質を認め合う姿勢

だれでもが気持ちよく暮らせる社会に向けての活動に取り組む人は、すべてコムケアの仲間です。なかには考えを異にする活動も出てくるかもしれません。しかし、それもまたお互いに受け入れあうようにしていきたいとコムケアでは考えています。さまざまな考えがあることは、社会、そしてそこで生活する私たちの暮らしを豊かにしてくれるはずです。異質を認め合う姿勢を大切にしたいと思います。

### ■重荷を背負いあう関係

コムケアではコミュニティを「重荷を背負いあった人間のつながり」と考えています。最近、私たちは重荷を背負いあう関係を捨ててきました。しかし、重いので捨ててしまった重荷の中に、実はとても大事な宝物があったのかもしれません。そんな思いもあって、改めて重荷を共有する関係を大事にしていきたいと考えています。「お互いに気遣い合いながら、放っておけないことに対して、それぞれが出来る範囲で汗と知恵を出しあうこと」。これがコムケアの理念です。

### ■事務局の分散化

コムケアでは、事務局も参加者も同じ目線で、一緒に考えていくということを大切にしてきました。コムケアのネットワークも、参加者みんなで育てていくようにしたいと考えています。事務局がなくても、自律的に育っていくネットワークが目標です。事務局機能は誰かが担わなければいけません、できればみんなが自発的に役割分担を持ち回りするようにして、事務局長などはいなくなるのが望ましいです。

## **コムケアの仲間になって、 一緒に支え合いの輪を育てませんか。**

日本は本当に豊かになったのでしょうか。

私たちは経済的な豊かさを追求するあまり  
何か大切なものをおろそかにしてしまったのではないのでしょうか。

たとえば

お互いに気遣い合うところ。

人と人との気持ちのつながり。

物や自然と心との通わせあい。

そして

誰もが安心して気持ちよく生活できる社会。

コムケア活動は

そうしたつながりや社会をみんなで回復して行こうという活動です。

みなさんもぜひコムケアの仲間になって、  
一緒にみんなが気持ちよく暮らせる社会を実現しませんか。

2007年5月15日

さあ、ここまでがコムケア物語の6年間のふりかえりです。  
今度は、あなた自身の物語のふりかえりと今後をここに描いてみましょう。  
fax.03-5689-0958 comcare@nifty.com (コムケアセンター宛)

コムケア応援団

阿部達明、大川新人、鎌田芳郎、菅野弘達、北岡元子  
坂谷信雄、島村八重子、下山浩一、鈴木淳、高橋一把  
田辺大、長岡素彦、西川義夫、宮田喜代志、四元恒慈  
コムケア仲間たち

コムケアセンタースタッフ

菅野弘達、佐藤修、橋本典之、宮部浩司

デザイン

宮部浩司

編集

佐藤修

発行（照会先）

2007年5月15日

## コミュニティケア活動支援センター

東京都文京区本郷3-37-8本郷春木町ビル9階

〒113-0033

電話：03-5689-0957

Eメール：comcare@nifty.com

ホームページ：http://homepage2.nifty.com/comcare/

この報告書は住友生命社会福祉事業団および東レ株式会社の支援によって作成されました。

